

令和3年12月27日  
総合計画改訂審議会 答申  
<別冊>

大山町未来づくり10年プラン  
(大山町総合計画)  
「基本計画」の改訂

【答申】

【赤字】総合計画改訂審議会の見直し(答申)

01

大山町で暮らすことに誇りを持つ子どもを増やそう



子供が主体的に遊ぶ中で、自ら学ぶ力を身につける

就学前の子どもたちにとって「遊び」は、大切な「学び」と考えています。保育所や家庭での遊びには、発達や成長に欠かせないたくさんの経験が含まれています。大山町の豊かな自然を活かした「自然体験活動」や「季節行事」また、「伝統行事」などを通し、友達や地域の人など様々な人と関わりつなげることを大切にします。その中で、自然や文化、人の温かさに触れる体験を通し、大山町の魅力を感じることができるようしていきます。

こうなったらいいな、10年後の大山町

地域の未来を担う子どもたちが、心も体も健やかに、笑顔で暮らせるまちは、きっといいまちです。  
ふるさとを愛し、ずっと住み続けたいと願う。まちを離れても、いつも心に大山町への思いを持ち続け、いつの日か帰ってきて、まちをよくする活動に取り組んでくれる。そんな子どもたちが育つ大山町になっています。

まちの現状と課題

地元には仕事がない。地元にはやりたいことがない。そうやって都会に出ていく若者がまだまだ多いのが現実です。それが、地方の人口減少・少子高齢化や、都市部への人口集中に拍車をかけています。

でも、子どもの数が少なくなる中でしかし、このような状況の中でも、大山町では、子どもたち一人ひとりにしっかり目が行き届いた、きめ細やかな教育に努めてきました。これまで丁寧に進めてきたふるさと教育により、「大山町に帰ってきたい」という子どもたちの数も増えてきています。

さらに、最近では、大山町に移住するI・J・Uターン者が増加し、これまでまちを支えてきた第一次産業以外にもさまざまな仕事をする人たちがよく出会います。

ちゃんと見直してみると、大山町には、やりたいことを実現するだけの可能性がたくさん眠っているのです。まずはその可能性に気づくこと。そして自分のやりたいことを見つけ、自ら実現する力を身につけること。そうすれば、おのずと大山町で暮らすことに誇りを感じるようになるはず。大山町は、一人ひとりがやりたいことを実現できる可能性を秘めた町です。まずはその可能性に気づき、自分のやりたいことを見つけ、実現する力を身につけることが大切です。そうすれば、おのずと大山町で暮らすことに誇りを感じるようになるはずです。

そんな、たくましく、頼もしい子どもを増やしていくことが大切です。ふるさと大山町を愛し、地域の未来を担う子ども達を町民みんなで育てていきたいと思っています。

こうなったらいいな、を実現するために

① 学校に行く前から子どもたちに学びの楽しさを知ってもらう

▶ 学ぶことは、とっても楽しい。子どもたちには、学校に行く前から、そのことを体感してもらいたいと思います。だから、家庭や保育所、学校が協力しながら、保育所における教育の充実に努め、小学校に行く前から、「学び」に触れられる環境をつくって来ました。これからも、机の上の勉強だけでなく、大山町の自然や文化、人などの魅力を体感できる「学び」の場を大切にします。

▶ 保育所や地域子育て支援センターがよりその力を発揮できるよう、保育士の研修を充実したり、保育に関する情報を交換したりできるようにサポートしていきます。

② 子どもたちの中にある力を伸ばす学校教育を考える

▶ 基本的な学力だけでなく、豊かな感性も持った子どもたちを育てることや、そして、子どもたちの中の可能性を最大限に伸ばすことが大切だと考えています。そのために、学校に通う子どもたちが、より学びやすい場環境をつくるとともに、教える側である先生たちのスキルアップ※もサポートしていきます。

▶ 異なる文化を理解し、尊重できてはじめて、自分自身のことをきちんと見つめることができます。いろいろな国のの人たちとやりとりするための外国語能力や自分の伝えたいことをしっかり表現できるコミュニケーション能力を身につけた子どもたちを育てます。

※ スキルアップ…技術力を高めること。腕前を上げること。

③ 大山町の「あたりまえ」のありがたさに気づく機会を増やす

▶ 旬の時期、ご近所さんから食べきれないくらい梨をもらうこと。かつて大山寺で、日本最大の牛馬市が開かれていたこと。大山おこわは各家庭によって味がちょっとずつ違って、でもどれもおいしいこと。みんなあたりまえだと思っているけれど、実はそれが大山ならではの良さなのです。自然、歴史、文化。大山町の「あたりまえ」のありがたさ、誇らしさをみんながあらためて実感する場をつくっていきます。

▶ 大山町の「あたりまえ」の良さに気がいたら、その良さを自分たち自身の手で守り、活かしながら、もっと魅力的な大山町をつくってほしい。自分の力でまちをよくしていくことの楽しさを知る子どもたちは、きっと将来、まちを支えてくれる頼もしい存在となることでしょう。学校だけでなく、住民、団体、企業、行政が協力しながら、子どもたちが、自分たちでまちをよくしていく意識を身につけるきっかけを生み出していきます。

④ 大山町で暮らし続けることに希望を感じるきっかけをつくる

▶ 近年、大山町での仕事は、農業だけじゃない！多様化しています。アートや映像をはじめ、新しい仕事がたくさん生まれています。まちの中にあるいろいろな仕事、そして、いきいきと働く人たちの存在をまちの子どもたちにしっかり伝えていきます。そのためには、実際にそれらの仕事に関わっているまちの人や会社の協力を得ながら進めます。ふるさとキャリア教育を進めていきます。

▶ 「自分の夢をかなえるには、都会に出ないといけない？」そんなことはありません！大山町には、自分のやりたいことを、自分の力で実現している人がたくさんいます。そういう人たちが確かにいるということを、そして、その素敵な生き方を、子どもだけでなく、まちに住むすべての人に伝えていきます。それが、大山町で暮らし続ける希望につながるはずですよ。

◆主な事業

ふるさと理解（教育）	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修の実施</li> <li>地域ボランティアの活用</li> <li>ふるさと学習教材の作成、活用</li> </ul>
------------	--

【主な施策の関連指標】

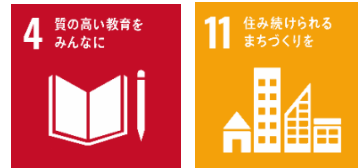
指標名	単位	現状値		目標値
		(小)	(中)	10年後
全国学力・学習状況調査 国語B問題(活用)の平均正答率の全国比較	%	+8.7	-1.0	+10.0 +5.0
全国学力・学習状況調査 算数・数学B問題(活用)の平均正答率の全国比較	%	+4.8	+0.1	+7.0 +5.0
全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定的回答率	%	69.0	75.4	75.0 80.0
		47.2	60.9	55.0 65.0
全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある」の肯定的回答率	%	41.9	53.5	50.0 60.0
		32.9	34.5	50.0 60.0

【関連する部門別計画】

- ・大山町教育振興基本計画
- ・大山町子ども・子育て支援事業計画
- 大山町食育推進計画

ふるさとキャリア教育を進める上で重要になるのが、コミュニティ・スクールの取り組みです。地域の大人の専門性や地域の力を活かし、地域総がかりで子ども達を育てていくことが、大山町で暮らし続ける一つのきっかけになると考えます。

みんながまちの自然・歴史・文化を語れるようになろう



こうなったらいいな、10年後の大山町

大山町に暮らすすべての人が、地域の自然や歴史、文化のすばらしさを実感していて、日常的に楽しんでいる。それだけではなく、その良さを活かし、さらに住みやすく、魅力的なまちを自分たちの力でつくろうとしている。今ある資源が大切に引き継がれ、さらに新しい魅力がどんどん生まれている。そんな大山町になっています。

まちの現状と課題

あなたは、大山町の自然や歴史、文化についてどれくらい語ることができますか？中国地方最高峰の大山。西日本最大級のブナ林。約1300年の歴史を持つ大山寺。名和長年公に関わる多くの史跡。松河原海岸のハマナス自生南限地帯。挙げるときりがなく大山町には自然や歴史、文化的な資源がたくさんあります。でも、その一つひとつの背景や価値は、案外知らない人が多いのではないのでしょうか。それらを知っていれば、もっと愛着が深まり、他の人に語りたくなるはずです。

普段の暮らしの中では、なかなかじっくり向き合う機会のない大山町の資源を、あらためて見つめ直していくことが大切です。

また、自然、歴史、文化は、どれも単独で存在しているものではありません。それぞれが相互に関係し合いながら、豊かな資源が育まれてきたことをしっかり理解したうえで、守り、活かしていくこと。それこそが、今ある資源を活かしながら、大山町のさらなる魅力につなげていく第一歩だと考えています。

こうなったらいいな、を実現するために

① 町内のメディアが率先して大山町の魅力を伝える

▶ 「広報だいせん」や「大山チャンネル」をはじめとした町内メディア。大山町のことを「最前線」で伝えるこうしたメディアが、率先して町内の自然や歴史、文化の良さを発信していくことで、より多くの人々が普段から大山町の資源に目を向けるきっかけを生み出していきます。

▶ 大山町のことを知ろうと思った時、多くの人々がまず見るのが町のホームページではないでしょうか。町のホームページでは、町内の自然や歴史、文化資源をより積極的に、魅力的に伝えていきます。

② 大山町のあらゆる資源を学びの場にする

▶ 町内にある自然や歴史、文化的な資源はまさに学びの宝庫。積極的に活かしていきたいと思っています。まちの魅力を一番よく知っている住民のみなさんと一緒に、町内の資源を活かした、新しい学びや体験を活かすプログラムを企画していきます。

▶ 大山町の資源をわかりやすくまとめたガイドブックやパンフレットをつくり、子どもから大人まで、学校教育から生涯学習の現場まで、いろいろな学びの場で活用していきます。

◆主な事業

歴史・文化資源の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 広報だいせんや大山チャンネルでの紹介</li> <li>■ 行政ホームページ等による関連情報サイトへの誘導促進</li> </ul>
地域資源に関する情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 広報だいせんや大山チャンネルでの紹介</li> </ul>

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
中海テレビ放送加入率 (大山チャンネル視聴可能率)	%	75.0 76.2	78.0



03

いつまでもいつまでも  
スポーツを楽しむ人をふやそう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

いくつになっても気軽にスポーツを親しめること。これって町内での暮らしを楽しむために、とても大切な要素です。スポーツができる場所。スポーツの楽しみ方を教えてくれる人。そして何よりもその楽しさをわかち合える仲間。それらがあたりまえにある。そんな大山町になっています。

まちの現状と課題

大山町には、すでに充実したスポーツ施設があります。これからは、施設の数を増やすことではなく、今ある施設をどう使うか、どう維持管理していくかを考えていかなければいけません。そのためには、利用者である住民のみなさんの声を施設運営にどんどん反映していくことや、民間のノウハウを活用していくことが求められます。

また、町内のスポーツを盛り上げてきた体育協会やスポーツ少年団は、活動する地域や会員の固定化、指導者不足などの課題に直面しつつあります。まずは、町内でスポーツに親しむ人の数を増やし、各団体の活動に関わる層を広げていくことが大切です。

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
社会体育施設年間利用者数	人	116,000	130,000

こうなったらいいな、  
を実現するために

① いつまでもいつまでも  
スポーツを楽しむ環境をつくる

▶ スポーツには、健康を維持するのはもちろん、人を笑顔にする力や人と人をつなげる力があると思います。だからこそ、住民のみなさんや団体などが企画するスポーツに関する活動や、地域が一体となって参加できるスポーツの場を積極的にサポートしていきます。そうした活動が大山町の明るい雰囲気や一体感につながるはずです。

▶ 学校施設の一般開放を継続し、住民のみなさんが身近な施設を利用し、いつでも気軽にスポーツを楽しむ環境をつくっていきます。

② 町内のスポーツを盛り上げる人や  
組織、団体の活動をサポートする

▶ スポーツ組織や団体それぞれが、自分たちで活動を生み出し、継続していくことのできる力をつけられるようサポートしていきます。

▶ スポーツの楽しみ方を指導してくれる人が身近にいれば、スポーツをはじめのきっかけになります。スポーツ推進委員を中心として、競技スポーツや生涯スポーツの指導ができる人を町内に増やしていきます。

③ スポーツ施設をより使いやすくする

▶ 社会体育施設を活用した多様なイベントを積極的に開催していきます。また、この先も継続して施設を管理運営していくことのできる体制をめざします。

▶ 体育活動の拠点としての社会体育施設の有効利用を図るため、施設の計画的な整備を行います。

04

文化・芸術との距離を縮めよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

文化・芸術性の高いまちとはどんなまちでしょうか。それは、日常生活の中で、質の高い文化・芸術に触れられるまちだと思います。住民自らが、文化や芸術の活動を楽しみ、そこから生まれたものを発信・発表する場がもうけられているまちだと思います。日々の暮らしに文化・芸術が溶け込んでいて、そこに暮らす人が、さらに新しい文化・芸術をつくっていくことのできる大山町になっています。

まちの現状と課題

大山町では、文化・芸術に関わりを持つ人、興味、関心を持つ人の数が増えてきています。地域のみなさんの自主的な活動や、アートスタート事業による子どもたちと文化・芸術とのふれあい、そして公民館サークル活動も活発化しています。

その一方で、活動に関わる人の層は高齢者や一部の興味がある人に偏っており、多くの人にとっては、芸術や文化は敷居の高いもの、非日常的なものという意識が残っています。

私たちの暮らしに楽しさや刺激、新しい視点を与えてくれる文化・芸術。その魅力を町内より多くの人に伝え、自ら文化・芸術に関わる人を増やしていくには、日常生活の中で、もっと気軽に触れられる機会を生み出していくことが大切です。文化・芸術を特別なものからもっと身近なものへ。それこそが、まちの文化・芸術の水準を高めていく第一歩です。

こうなったらいいな、  
を実現するために

① 文化・芸術との距離を縮める  
きっかけを増やす

▶ いいものにたくさん触れることが、文化・芸術との距離を縮めるためには重要です。小中学校芸術鑑賞事業の開催を通じて、文化・芸術に触れる機会を増やしていきます。

▶ 町内に限らず、県内各地でも文化・芸術に関する活動が数多く展開されています。そうしたイベントや事業を住民のみなさんにお知らせすることで、より幅広い文化・芸術との接点を生み出していきます。

② これまでとこれからの  
文化・芸術の魅力を伝える

▶ 町内に残る伝統行事・伝統芸能を次の世代に引き継いでいくには、若い世代を中心として、町内の幅広い層の人たちの力が必要です。まずは地域の伝統行事・芸能により多くの人に触れる機会をつくり、保存・伝承のサポートにつなげます。

▶ 住民が取り組む文化・芸術活動を発表する場が増えれば、その活動自体のレベルアップにつながるとともに、文化・芸術の楽しさ、魅力をより多くの人に伝えるきっかけにもなります。大山町総合文化祭の開催などにより、そうした活動の発表の場を提供していきます。

▶ そこに行けば文化・芸術に触れられる場所。そこに行けば、文化・芸術の活動に参加できる場所。そんな場所も増やしていきます。

【主な施策の関連指標】

指標名	分類	単位	現状値	目標値
公民館・図書館での文化・芸術展示回数	公民館	回	18	25
	図書館	回	85	100

## 町の誇りとなる文化財を守り活用しよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

先人たちが築き、守ってきた文化財を引き継いでいる私たち。そのことに誇りを持ち、託された文化財の価値を正しく理解し、それらが、私たちの日々の暮らしやまちをよくしていくために、観光や教育などさまざまな分野で積極的に活用されています。

### まちの現状と課題

約1300年の歴史を持つ大山寺。国の重要文化財や県の指定保護文化財に指定された建物などを含む所子伝統的建造物群保存地区。大山町の歴史や文化を象徴するこうした文化財は、地域の顔であり、私たちの誇りです。町内に数多く存在する貴重な文化財は、多くの人を引き寄せ、力を持っており、まちづくりや観光、ふるさと教育など、さまざまな形で活用が期待されています。

これまで、こうした資源を保存しながら活用していくために、リーフレット・パンフレットの作成やホームページでの情報発信に取り組んできました。

今後は、それらに加え、どのような媒体で、どのようなところを対象に、どのような情報を伝えていくと、より大山町の歴史や文化の魅力が効果的に伝わっていくかを考えていく必要があります。

また、自分たちの地域の歴史や文化について、正しい知識を持ち、自分たちで守っていくという思いを持つ住民を増やしていくための取り組みも重要です。

こうなったらいいな、  
を実現するために

### ① 町内の文化財を魅力的に情報発信する

▶ 文化財の価値を活かすために、その良さを積極的に発信していき、まちづくりや観光客の誘致、ふるさと教育の推進につなげます。

▶ 自らの力でこの資源を保存・活用していきたいという思いを持つ住民を増やしていくために、まずは文化財についての理解を深める機会を増やしていきます。見学会や講演会などを開催し、町内にどんな文化財があるのか。それらはどのように生まれ、どのように守られてきたのか。今後どう引き継いでいくべきなのか。そうした正しい理解を持ってもらうきっかけをつくりまします。

### ② 文化財を正しく理解し、大切に保存し活用する

▶ 文化財を大切に守り活用するには、その文化財の歴史的な背景や物理的な特徴などについても、きちんと把握しておく必要があります。地域の歴史を知るうえで重要な遺跡の調査を今後も継続していきます。また、伝統的建造物群保存地区の保存を続けるとともに、文化財の活用に向けた継続的な取り組みも進めます。

## 心も体も健やかな暮らしにつながる食育を実現しよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

食べものが生産される過程や食についての正しい知識を持ち、豊かな食生活を楽しんでいる。そして、心も体も健やかな暮らしを送っている。そんなライフスタイルがあたりまえに定着している大山町になっています。

### まちの現状と課題

食習慣は、一生の健康や暮らしを左右するものです。大山町では、循環器系の疾患や糖尿病など生活習慣が原因による病気が多い傾向にあり、食生活の改善を通じて、そうした病気を未然に防ぐことが求められています。そのためには、小さな子どもやその親への食育をしっかりと進めることが大切です。

これまで大山町では、第1次・2次大山町食育推進計画に基づいて、各種の食育事業を展開してきました。その結果、学校給食で県内食材の利用率を高めるなどの目標を達成することができました。**が、食の大切さを知る、伝えるという分野はこれらの計画期間は終了しましたが、今後も関係者と連携を図り、引き続き重点的に取り組まなければなりません。**

食育は家庭が中心となって行うものとされてきましたが、家族の形態やライフスタイル、食生活が多様化する中、地域全体のサポートも求められる時代です。家庭や地域、食に関係するあらゆる団体が連携しながら、食に関する知識や正しい食習慣を伝えるとともに、地産地消の推進、食の安全への対応や地域に残る食文化の継承などに取り組んでいく必要があります。

さらに昨今では、暮らしをよりよいものにするため、自分が食べるものが生み出されるプロセス※に積極的に関わる「かしこい生活者※」の重要性が高まっています。生産者と消費者の距離が近いという大山町の特性を活かし、つくる人とそれを食べる人の両者が交流することで、食の恵みのありがたさを実感し、正しい知識を持った「かしこい生活者」を増やしていくという視点も重要です。

※ プロセス…ものごとの過程や方法。

※ かしこい生活者…身の回りの暮らしをより安心して豊かなものにするために、自ら情報を集め、合理的に判断し、行動しようとする人。

こうなったらいいな、  
を実現するために

### ① 子どもたちに町内の食の恵みの豊かさを伝える

▶ 町内の生産者と連携し、子どもたちに地域でとれた食材のすばらしさを実感してもらう地産地消の学校給食を継続して進めていきます。また、その食材がどんな人の手で、どのようにつくられたのかを伝えるために、生産者との交流の場をつくるなど、地域が一体となって、町内の食の恵みの豊かさや正しい知識を共有するための食育をめざします。

▶ 学校の中だけでなく、家庭とも連携し、家での基本的な生活習慣を身につけてもらうための教育を進め、子どもたちが心も体も健やかに育つための食生活を実現します。

### ② それぞれの人のライフステージにあった食習慣を実現する

▶ 食は私たちの体をつくり、支えるもの。だからこそ、幼児期から正しい食習慣を身につけておくことが重要です。幼児やその親を対象とした食育を進めます。

▶ 生活習慣病を予防するため、食生活改善推進員協議会と連携しながら、日々食べるものを薄味にしていくことの大切さを伝えていきます。

▶ 食育推進のための行動計画をつくり、それぞれの人のライフステージに合わせて食生活の改善活動ができるような体制を実現します。

#### 【関連する部門別計画】

・大山町子ども・子育て支援事業計画

→大山町食育推進計画

・第4次食育推進基本計画（国）



いくつになっても学び続け、  
行動し続けよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

いくつになっても学びの好奇心を持ち続けている人。趣味や余暇活動など、自ら楽しい活動を生み出している人。自分も楽しくて、地域のためにもなるコミュニティ活動やボランティア活動に取り組んでいる人。そんな人たちがたくさんいて、交流しながらお互いの活動を高め合っている。そして、その活動をサポートする環境が整っている。そんな大山町になっています。

まちの現状と課題

私たちを取り巻く社会の状況は日々多様化、複雑化し、学びの好奇心が高まっています。さらにインターネットの普及などによって、さまざまな情報が手に入りやすくなったことで、自ら学び、積極的に行動する人が増えています。

一方で、仕事や日常生活の忙しさなどから、新しいことを学ぶという行為に関心を持つ余裕がない住民も増加してきており、いわゆる社会教育と呼ばれる、学校以外での学びとの関わりは人によって大きな差が生まれています。

学び続けることは、社会との関わりをもち地域に出かけることにつながり、暮らしの楽しさや日々の生きがいに欠かせない要素です。

より多くの人々が、新しいことを学ぶ楽しさを実感するための環境づくりが必要です。思い立った時に気軽に学習ができる施設の整備を含めた環境づくりを進めるとともに、ライフステージに合わせた学習の機会を提供することで、学びを通じた楽しさと生きがいにつながっていきます。また、ただ学ぶだけでなく、学んだことを実践・発表できる場も必要です。

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
公民館が主催する講座・教室等の参加者数	人	1,045	1,150
公民館の文化教室や自主サークルの組織数と活動人数	団体	123	140
	人	1,173	1,300

こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① **学びの好奇心を刺激する環境をつくる**
  - ▶ 公民館・学校・関係団体・地域などが連携し、住民の学びの好奇心を刺激するような生涯学習の推進体制をつくり、柔軟に運営していくように努めます。
  - ▶ 生涯学習に関する活動を、自らの力で生み出すことのできる住民を増やしていくため、まずは学ぶことの楽しさを伝える取り組みを進めます。
  - ▶ 新しい学びを得られる場、学びの好奇心を刺激する場として、図書館がより活用されるようにその機能を充実していきます。また、関係機関との連携を強め、幅広い学習資料や学習情報が手に入れられる場としても、充実するよう努めます。
- ② **高齢者の持つ知恵や技術を活かす場をつくる**
  - ▶ 高齢者の方たちが培ってきた知恵や技術を地域に活かすため、引き続き体験交流事業の中で高齢者が活躍できる場をつくっていきます。
  - ▶ 社会や地域の中で、自分の役割を見出せるということが、生きがいや、やりがいにつながります。いくつになっても地域に関わること、自分の知識や経験を活かして働き続けることの大切さについて、理解を広めていくよう努めます。
  - ▶ 高齢者の方が、それぞれのやりたいことやできることを活かして地域で活躍できる場を増やしていくため、高齢者同士の交流の場づくりや地域コミュニティなど、活動の場についての情報提供を積極的に進めます。

公民館や図書館をもっと活用しよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

いくつになっても新しい学びがあることは、暮らしの楽しみであり、よろこびです。大山町に暮らす一人ひとりに、「学びたい!」という気持ちを持ってもらいたい。そしてその気持ちを具体的な行動につなげるための拠点が、公民館や図書館です。公民館や図書館にさまざまな人が集い、交流しながら新たな学びを生み出す活動が広がっています。

まちの現状と課題

大山町には、3つの公民館と3つの分館があり、文化・芸術をはじめ、生涯学習に取り組むための拠点として活用されています。高齢者学級や大山学講座では、中山、名和、大山地区が連携した学習活動が展開されており、地域交流も盛んになってきました。さらに公民館の活用を広げていくには、公民館を中心として図書館、各教育機関などといった連携を進めながら、よりよい学習環境の実現や充実した情報提供などのサービスを実現していかなければいけません。また、地区ごとに公民館や分館があることを活かし、各地区で特徴的な事業を推進することが必要となっています。

さらに、本を読む楽しさを伝えていくために、今後も継続的に幅広い図書資料を充実させていくとともに、ライフステージに合わせた読書活動をきめ細やかに推進していくことが求められます。図書巡回車の有効活用、読書ボランティアの育成、地域資料の充実、各教育機関・福祉機関との連携など、広い範囲での図書館サービスをより充実させていくことも重要です。

こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① **関係機関と連携し、学びの楽しさを伝える**
  - ▶ それぞれの公民館が主催する事業やサークル活動で連携や交流を深め、活動情報の提供や学習相談体制の充実を図ります。
  - ▶ 公民館がより充実した学びの拠点となるように、地域自主組織などと連携して学びに関する情報、生涯学習人材バンクを活用した講師に関する情報の提供や学びについて気軽に相談ができる体制をいっそう強化します。
- ② **公民館や図書館をもっと利用しやすくなる場所にする**
  - ▶ 住民や企業・団体とも連携しながら、公民館が主催する取り組みを充実します。
  - ▶ 利用者のニーズに応じた幅広い資料を収集・整備・保存することで、幅広い層に本を読むことの大切さや楽しさを実感してもらう図書館サービスを実現します。
  - ▶ ホームページの運営や広報での情報発信などを通じて、若者から高齢者まで、多くの住民に対してわかりやすく魅力的な情報提供を積極的に行います。

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
公民館の年間延べ利用者数	人	28,963	32,000
図書館の年間延べ利用者数	人	17,925	19,000
図書館利用者の年間レファレンス対応件数	件	583	700

【関連する部門別計画】

・大山町子どもの読書活動推進計画

第3節 だれもが自分らしさや生きがいを見出すために

09

すべての人がかけがえのない存在として大切にされるまちをつくろう



こうなったらいいな、10年後の大山町

すべての人が大切にされる。それがあたりまえに根付いた大山町でありたいと思います。すべての人が地域の中で排除されることなく、自分の居場所や役割、生きがいを見つけることができるよう、大山町で暮らす一人ひとりが意識し、行動するまちになっています。

まちの現状と課題

人権問題は、年々多様化、複雑化しています。そのことを大山町に暮らすより多くの人に知ってもらうため、大山町では年齢、性別、国籍、障がいの有無などを問わず、すべての人が暮らしやすく自立した社会生活を送るための人権啓発事業などに取り組んできました。

また、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決に向け、地域、学校、企業など多くの人々や機関・団体と連携し、人権尊重のまちづくりを実現するための取り組みも進めてきました。これらの取り組みの結果、人権問題について関心を持ち、自ら活動に関わる住民の数が年々増加してきています。

誰とでも隔たりなく接することが、あたりまえにできるまちを実現していくため、さまざまな立場の人たちと交流し、互いに理解し合う機会をより多く提供していくことが求められています。それにより、お互いを認めて尊重し合い、受け入れることの大切さを実感する人たちの増やしていかなければなりません。

また万が一、人権に関する問題が起こった時、すぐに相談でき、迅速なサポートを受けられる、そんな頼りになる場所もつくっておく必要があります。

こうなったらいいな、を実現するために

① あらゆる人権を尊重するまちを実現する

▶ 人権・同和問題小地域懇談会や「みんなの人権セミナー」など、人権についての意識を高める取り組みを進め、住民一人ひとりが、誰とでも隔たりなく接することの大切さをしっかり認識する機会を充実していきます。また、大山町全体でその意識を広めていくため、住民や企業・団体との連携も進めていきます。

▶ 大山町人権・同和教育推進協議会の運営をサポートし、より充実した取り組みを実現します。

② 隣保館の運営をより充実させる

▶ よりよい福祉や人権についての意識を高めるための拠点となる地域に密着したコミュニティセンター「隣保館」。その運営や隣保館を拠点として進められる事業をさらに充実させていくことで、人権について気軽に相談できる場づくりや人権に関する正しい情報の発信、地域内外の多様な人たちの交流の機会づくりに取り組んでいきます。

◆主な事業

人権尊重のまちづくりの推進

■実践につなげるための学習機会の提供

- ・人権・同和問題小地域懇談会
- ・みんなの人権セミナー
- ・人権・同和教育研究推進大会

■隣保館事業の充実

【関連する部門別計画】

- ・大山町人権施策総合計画

第3節 だれもが自分らしさや生きがいを見出すために

10

「男らしさ」「女らしさ」ではなく「自分らしさ」を大切にしよう



こうなったらいいな、10年後の大山町

「男だから」、「女だから」。そんな固定観念に、とらわれていませんか。性別に関わらず、すべての人がその人らしさを活かして、いきいきと楽しく暮らすことのできる大山町になっています。

まちの現状と課題

平成22年に、第3次男女共同参画基本計画が施行され、平成32年までに政治分野、司法分野、行政分野などにおいて女性の人材登用率を30%に引き上げることを目標としています。国が掲げる成長戦略でも、「女性の活躍促進」が大きな柱となっており、「待機児童の解消」、「職場復帰・再就職の支援」、「女性役員・管理職の増加」などの施策を進めています。

大山町でも、平成18年度に「男女共同参画プラン」、平成24年度に「大山町男女共同参画推進条例」ができ、性別に関わらず誰もが活躍できる「男女共同参画」のまちづくりが着実に進んでいます。

しかし、より多くの人に、「男女共同参画」の大切さを伝え、それがあたりまえに実行されるまちをつくっていくにはまだまだ多くの取り組みが必要です。

特に、子育てや働く環境の面では、女性が暮らしやすく働きやすくなるよう、さらなる制度的な支援を進めるとともに、住民一人ひとりの意識を変えていく必要があります。「男だから」、「女だから」という性別による固定観念にとらわれず、私たち一人ひとりの個性と能力を発揮し、町内で暮らしを楽しむことのできるような地域の実現が望まれます。

こうなったらいいな、を実現するために

① 誰もが自分らしさを活かして生きることのできる環境をつくる

▶ 「人権・同和問題小地域懇談会」、「みんなの人権セミナー」、「男女共同参画週間」における取り組みなどを通じて、性別に関わらず誰もが自分らしさを活かしていきいきと楽しく暮らすことのできる男女共同参画社会の大切さやその実現のために、私たち一人ひとりができることについて広く伝えていきます。

▶ 政策・方針決定過程に女性が関わる機会を増やします。

▶ 女性だけが子育てに悩む。仕事をあきらめなければいけない。それでは、住みたいまち、住み続けたいまちとはいえません。誰もがいきいきと笑顔で暮らせるまちをめざして子育てや仕事をサポートするための環境をつくっていきます。

▶ 男女共同参画かるたや標語づくりなど、普及のためのツール作成を進めます。

◆主な事業

男女共同参画意識の啓発

■学習機会の提供

- ・男女共同参画フォーラム講座

【関連する部門別計画】

- ・大山町男女共同参画プラン



## 一次産業に あこがれる若者を増やそう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

「一次産業ってかわいい！」そう若者が実感できるまちでありたいと思います。恵まれた自然資源やこれまで培ってきたノウハウ、町内のつながりを活かして、どんどん新しい一次産業のアイデアが生まれ実現されていく。そして、それらが「もうかる一次産業に」につながっていく。「大変」、「もうからない」というイメージを率先して塗り替えるまちになっています。

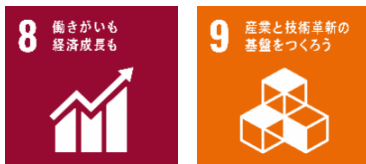
### まちの現状と課題

大山の裾野に広がる肥沃な土壌とその養分に恵まれた漁場など、豊かな自然に恵まれた大山町。農業では水稲をはじめ、野菜、果樹、畜産物などが県下有数の生産量を誇っています。林業では町の約60%を占める森林を守り育ててきました。水産業では県下有数の沿岸漁業基地があります。特に、農畜水産業では付加価値を高めるブランド化を進めてきており、「大山」のブランド力も自慢の一つです。その結果、大きな規模で一次産業を展開する専業の人も数多くいます。

一方で、新規参入者は一定数いるものの、一次産業に関わる人の後継者不足や高齢化は深刻で、農業においては遊休農地の拡大も進んでおり、持続的な維持、発展が困難な状況もあります。

かけがえのない自然資源を活かし、大山町の一次産業をもっと広げていくためには、まず新しい担い手を増やしていくことが重要です。また、新しい一次産業のリーダーとなる人が求められています。

今後予定されている、TPPの発効により市場開放は進むことになり、さらに足腰を強くし、持続可能で魅力ある一次産業に発展させていくことが必要となります。



こうなったらいいな、  
を実現するために

### ① 「かわいい」、「もうかる」 一次産業を実現する

▶ 一次産業の体験・技術指導会を実施して後継者を育成していきます。

▶ IJUターンで大山町に移住してきた人々や仕事を退職した人々が、新たに一次産業に関わり、仕事ややりがいを見つけられるようサポートしていきます。

▶ 「もうかる」一次産業を実現するため、経営改善指導や制度資金活用指導の充実を進めます。

▶ 一次産業で新しく仕事を始める間口を広げるため、機械・施設などの導入に関わる支援を進め、初期投資の負担を軽減します。

▶ 農家の規模を拡大するため、そして効率的な営農を実現するため、農地を効果的に集積させていきます。

▶ 豊かな自然資源を活かしながら「かわいい」一次産業のあり方を積極的に提案し、実現できる環境をつくっていきます。また、そうした新しい一次産業の魅力を効果的にPRし、町内外の若者が大山町の一次産業にあこがれを抱くようなきっかけを生み出していきます。

### ② 無理せずに一次産業を続けていく ことのできる環境をつくる

▶ 人材活用システムを利用し、生産体制を充実させるとともに、企業を含めた新しい参入者が大山町で一次産業をはじめやすい環境づくりを進めます。

▶ 作業機械を共同で利用したり、導入をサポートしたりすることによる効率的な集団営農を推進します。

### ③ 他の産地にはない 大山町ならではの強みを見つける

▶ 大山町にあって他の地域にないものは何なのか。町内外の視点を踏まえながら、それをきちんと見つめ、大山町ならではの付加価値を生み出していくことで、さらなるブランド化を進めます。

▶ 経営改善によるコストの削減、生産体制・技術の向上を通じて、収穫量を増やし、町内の一次産業所得を向上させていくことで、「大山町＝もうかる一次産業」のイメージを広げていきます。

### ④ 生産基盤の充実

▶ 経営の視点から一次産業の効率性を高めるため、かんがい施設・土地改良施設・道路・水路・磯場など、生産に欠かせない設備の整備や維持管理を進めます。



◆主な事業

農業分野	
多様な農産物の生産振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生産安定・省力化によるコストの低減               <ul style="list-style-type: none"> <li>(水稲)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・良質米品種の導入</li> <li>・飼料用米の生産拡大</li> </ul> </li> <li>(野菜)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産技術の向上</li> <li>・施設化の推進による産地拡大</li> <li>・高齢者農家に合った作物の生産振興</li> </ul> </li> <li>(果実)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・優良品種及び新品種への改植等の推進</li> </ul> </li> <li>(花き)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス施設の有効活用</li> <li>・栽培技術の確立と高品質化による産地育成</li> </ul> </li> <li>(その他：芝)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存産地の計画的な生産拡大・集団化</li> <li>・機械化による作業の一環体系の確立</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>■環境にやさしいエコ農業の取り組み支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境や健康に対する消費者ニーズの高まりに対応し、土づくりをとおして、減農薬・減化学肥料等、環境にやさしい農業への取り組み支援</li> </ul> </li> <li>■エコ農業による野菜の周年栽培の取り組み支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境にやさしいエコ農業による、安心安全な付加価値ある野菜の周年栽培の取り組みを支援</li> </ul> </li> </ul>
大山ブランド開発支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■本町の特産農産物の開発               <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規作物の実証及び特産品の付加価値向上等に係る経費の助成取り組みを支援</li> </ul> </li> </ul>
担い手・後継者対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■担い手の育成と支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリマイスターによる新規就農者の育成</li> <li>・農業体験・技術指導会等の実施による農業後継者の育成</li> <li>・I J Uターン者や退職者等の新規就農の促進</li> <li>・経営改善指導及び制度資金活用指導の充実</li> <li>・就農初期の経営基盤整備の負担軽減策の実施</li> </ul> </li> </ul>
地域営農体制づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人・農地プランの策定及び、農地中間管理事業の活用による地域営農体制づくりの推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者や営農集団の育成</li> <li>・集落営農組織による営農体制の充実</li> <li>・農業機械の共同利用等による効率的な営農の推進</li> </ul> </li> <li>■異業種等による営農体制の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業新規参入促進による営農体制の充実</li> <li>・人材活用システムを利用した営農体制の充実</li> </ul> </li> <li>■農業振興組織による営農体制の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業サポートセンター（仮称）設立の検討</li> </ul> </li> </ul>
就農条件整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■就農初期における負担軽減を行うことにより、継続的な営農を支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者の機械・施設等導入に係る補助</li> </ul> </li> </ul>
土づくり対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■耕畜連携による土づくり対策の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコ農業の取り組みや、品質のよい農産物の生産のための土づくりにおいて、耕畜連携による畜産堆肥の利活用を推進する</li> </ul> </li> </ul>

地域資源を活かした食づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大山ブランドを活かした食の開発               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域食材・食文化を活かしたメニューづくり</li> <li>・特産品・加工品の開発</li> <li>・低農薬・有機栽培農業など農産物の高付加価値化</li> </ul> </li> </ul>
鳥獣被害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■被害拡大の防止と適正な駆除の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・有害鳥獣捕獲</li> <li>・鳥獣の侵入防止対策の推進</li> <li>・狩猟免許取得の推進による捕獲体制の整備</li> <li>・特定外来生物（ヌートリア・アライグマ）の駆除推進</li> </ul> </li> </ul>
農用設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■畑地帯整備               <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑かん整備</li> <li>・農道整備</li> </ul> </li> <li>■老朽ため池施設の改修               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ため池施設改修</li> </ul> </li> </ul>
農用施設の保全と確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農業水利システムの保全対策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・水路施設整備</li> <li>・老朽化土地改良施設等の維持管理</li> </ul> </li> <li>■農道の保全対策の推進</li> </ul>
畜産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>■飼料生産と機械の共同利用作業による低コスト化・省力化の推進</li> <li>■優良繁殖牛の確保               <ul style="list-style-type: none"> <li>・優良繁殖牛の導入補助</li> </ul> </li> <li>■和牛放牧経営体育成事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼養管理の省力化</li> <li>・耕作放棄地の解消</li> </ul> </li> <li>■畜産排泄物対策事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・耕畜連携の推進</li> <li>・堆肥舎の拡充</li> <li>・臭気対策の推進</li> </ul> </li> <li>■乳牛共進会補助事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・共進会の実施</li> </ul> </li> <li>■家畜伝染病防疫対策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・口蹄疫、鳥インフルエンザ予防対策</li> </ul> </li> </ul>
ふん尿処理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>■畜産排泄物の有効利用による環境保全型農業の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥センター等での良質堆肥の生産及び町内農家での活用</li> </ul> </li> </ul>

林業分野	
森林資源の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>■森林機能の保全及び、木材の有効利用を図る</li> <li>・森林計画の策定</li> <li>・間伐、育林、保育等の造林の推進</li> <li>・松くい虫・ナラ枯れ防除の実施</li> <li>・治山・治水施設の整備</li> <li>・樹種転換の推進</li> <li>・木材を使用した公共施設等の建設推進</li> </ul>
林業生産基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■林道、作業路の整備</li> <li>・間伐材の搬出確保</li> </ul>
林業従事者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■林業体験の促進とI J Uターナーの受け入れ</li> <li>・林業従事者の確保</li> <li>・共生の森拡大</li> </ul>
林業資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■木質バイオマスエネルギー資源の利活用促進</li> <li>・木質ペレットの活用</li> <li>・間伐材の有効活用</li> <li>■森林空間を活用した交流の場づくり</li> <li>・共生の森づくり</li> </ul>
竹林整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■竹林拡大による森林環境の悪化防止</li> <li>・森林環境の改善</li> <li>・放置竹林の整備</li> <li>・竹林の適正管理</li> </ul>
漁業分野	
漁業施設整備とストックマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町内3漁港の施設整備と長寿命化</li> <li>・港内静穏度の向上</li> <li>・既存施設の長寿命化計画</li> <li>・泊地の浚渫※等</li> </ul>
漁業経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■直売所の活用</li> <li>・魚食普及、観光資源への育成</li> <li>・施設の拡充・整備</li> <li>■漁業経営の近代化と安定化の促進</li> <li>・利子補給等による支援</li> </ul>
漁業就労者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■担い手の育成・支援</li> <li>・担い手育成研修事業への支援</li> <li>・新規就業者への設備資金助成</li> </ul>
水産資源の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>■栽培漁業及び磯場増殖への支援</li> <li>・サザエ・アワビの種苗放流</li> <li>・磯場増殖事業の実践化</li> <li>・<b>漁魚</b>礁設置</li> </ul>

※ 浚渫…水底をさらって土砂などを取り除くこと。

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値			
			10年後			
人・農地プランの策定	集落	19	40	100		
農地中間管理事業による農地集積	ha	25	581	500	800	
認定農業者（基本構想達成者含む）	人・件	259	264	350		
果実	産出額	万円	48,876	48,996	55,000	
花き	産出額	万円	6,750	6,200		
芝	作付面積	ha	394	375	405	
	産出額	万円	67,275	68,850		
水稻	収穫量	t	5,370	5,131	5,000	
ブロッコリー	収穫量	t	3,829	3,721	3,033	4,200
	販売金額	万円	108,112	113,622	90,990	136,080
白ネギ	収穫量	t	754	741	851	
	販売金額	万円	27,672	26,545	29,768	
メロン	収穫量	t	78	55	70	
	販売金額	万円	2,990	2,421	2,680	
農業生産法人数	法人数		4	7		
担い手への土地利用集積率	%		31	38	41	
特定農業団体と同様の要件を満たす集落営農組織数	組織		0	2		
畑かんの普及率	%		85	91	100	
乳牛	飼養戸数	戸	39	34	37	
	飼養頭数	頭	2,623	2,866	2,500	2,930
肉用牛	飼養戸数	戸	35	41	32	43
	飼養頭数	頭	1,153	1,487	1,050	1,600
豚	飼養戸数	戸	6	3	6	
	飼養頭数	頭	35,187	34,344	35,187	
鶏	飼養農場数	農場	22	20	22	
	飼養羽数	羽	471,964	482,907	471,964	490,000
造林事業	下刈り	ha	30	20		
	除間伐	ha	21	40		
	枝打ち	ha	23	20		
	人工造林	ha	6	5		
	利用間伐	ha	6	80		
木質バイオマスエネルギー資源の利活用	%		0.3	50		
林業従事者年間延人数（大山森林組合作業班）	人		5,050	3,497	5,200	
若手漁業者数（40代以下）	人		25	11	25	
漁獲量	t		413	436	450	
漁獲高	万円		25,400	25,678	30,000	
定置網水揚高	万円		3,000	2,410	3,600	
係船岸延長（御来屋・御崎計）	m		704	704		
登録漁船数	隻		95	78	95	
稚貝放流	サザエ	個	120,000	162,500	120,000	200,000
	アワビ	個	17,500	55,500	17,500	80,000

【関連する部門別計画】

- ・農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想
- ・大山町農業振興地域整備計画
- ・大山町人・農地プラン
- ・大山町循環型森林資源活用計画



自然の恵みを活かして  
「大山町といえばこれ！」をつくろう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

町内の農畜水産物は素材そのままでももちろんおいしいのですが、加工品としても活用していきたいと思えます。町内外でひろく親んでもらえるような商品をつくり、10年後には、町内外のだけれども、「大山町といえばこれ！」と共通して言えるような、大山町の特産品が生まれています。

まちの現状と課題

県内でも有数の生産量を誇る町内の農畜産物。地域内では、そのまま楽しむだけでなく、それらを加工・調理する独自の食べ方が受け継がれてきました。平成19年には、町内農産物や既存特産物の価値を高め、流通を拡大させ、新たな雇用創出などを目的に、一般財団法人大山恵みの里公社が設立されました。この恵みの里公社を通じて、町内産の加工品や大山町ならではの産品を町内外へ発信・販売できる体制が整いつつあります。

一方で、農畜水産物や加工品のブランド化はまだ十分とはいえません。大山町内一体となって、まちの顔となる商品をつくっていくには、その材料となる作物の生産拡大を進めるとともに、町内の特産品として共通して認識できるようなシステムが必要となります。また、販路拡大やそれに伴う流通体制の強化、地産地消の仕組みの強化も考えていかなければなりません。

町内には、すでに恵まれた自然資源や加工施設、食材をおいしく食べるための知恵があります。それらを最大限に活かして、「大山町といえばこれ！」と名前があがるような商品を生み出していくことが求められています。



こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① **地域の食材と大山ブランドを活かして食の魅力を伝える**
  - ▶ 農畜水産物に高い付加価値をつけ、食の魅力向上をめざします。
  - ▶ 商品のマーケティング※戦略を進め、より多くの人に大山町の魅力を伝えます。
  - ▶ 大山の恵みである農畜水産物や大山町ならではの食文化を活かし、売上と利益の拡大を目指した商品開発を進めます。
  - ▶ 大山町の人々が親しんできた食材・食文化を活かした料理や加工品を町内外の人に楽しんでもらうための流通・販売を実現します。
- ② **食べる場所、つくる場所として既存の施設を活用する**
  - ▶ 学校、福祉施設、集客施設など、町内にある施設で、大山町の食材や食文化を活かした給食・食事などを提供し、食の魅力を体感してもらう機会を増やします。
  - ▶ **農産物処理加工施設などの既存の施設や加工のノウハウを持っている人的資源を最大限に活かし、できるだけ少ない設備投資で商品開発を進めます。**

※ マーケティング…顧客のニーズを解明し、真に求める価値を提供できるようにすること。

◆主な事業

多様な農産物の生産振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>■一般財団法人大山恵みの里公社と連携推進</li> <li>■町内産品の新規販路開拓支援</li> </ul>
大山町ブランド発信事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町内事業者の商標・意匠登録の出願料・登録料の補助</li> </ul>
大山町農商工連携等サポートセンター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農商工連携事業者への各種コンサルタント業務やセミナー等研修機会の提供</li> <li>■新商品開発や販売促進の支援</li> </ul>
農産物処理加工施設管理事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農畜産物等加工の付加価値向上と研究開発、特産化への支援</li> </ul>
ふるさと納税事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■返礼品の充実により大山町の魅力をPR</li> <li>■新たな寄附者の開拓による交流人口・関係人口の増加</li> </ul>

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
(一財)大山恵みの里公社における売上高向上	万円	27,146 24,400	30,000
町内商業年間商品販売額	万円	400,000	420,000
農家民宿・農家レストランの開業	件	4	8
ふるさと納税寄附額	万円	41,615	50,000

若者がはたらきたくなる  
会社や仕事を増やそう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

移住者・定住者を増やすためには、雇用をつくるのが大事だといわれますが、ただ仕事の数が満たされているだけでよいはありません。それぞれの人の生き方や働き方にあった、大山町で暮らすことの喜びにつながるような働き場が必要です。単にお金がもうかるというだけではなく、地域や社会のためになる、自分のやりたいことを実現できるという働き甲斐も求められます。

多種多様な企業が進出し、町内の仕事の選択肢が広がり、若者をはじめとして大山町に暮らす人々が地元で働き、生活することに希望を感じられるようなまちになっています。

まちの現状と課題

新しい働き方を模索しようとする企業のサテライトオフィス<sup>※</sup>の設置が全国的に進みつつあります。

大山町では、町内に魅力ある仕事を生み出していくため、企業誘致や若者の定住、雇用の場の確保を積極的に進めてきました。また、交通網の整備や新たな工業団地の造成、高度情報通信基盤の整備など、企業が大山町にきたいと感じるような環境がつけられてきました。その結果、本町に進出する企業が増え、地域の活性化に貢献しています。

今後この流れを広げていくためには、大山町独自の企業誘致の取り組みを積極的に進めていく必要があります。特に、若者が魅力的と感じる多種多様な企業に働きかけていくことが重要です。

一方で、以前から大山町内で操業している企業の体質強化や経営支援を進めることで、町内の資源を活かした大山町ならではの産業を生み出していくという視点も忘れてはいけません。

こうして、町内で仕事の選択肢を増やすとともに、多種多様な働き方の魅力を町内外に発信していくことで、大山町で働きたい、暮らしたいと感じる若者を増やしていくことが求められています。

※ サテライトオフィス…企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィスのこと。

※ ICT…コンピューターやインターネットに関連する情報通信技術の総称。



こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① 若者が働きたくなる企業を誘致する
  - ▶ 工業団地などへの企業誘致活動を進めます。
  - ▶ 町内に整備されている高速インターネット環境などを活かし、ICT<sup>※</sup>関連やデザイン関連など、若者が魅力を感じる新しい職種の企業誘致を実現します。
  - ▶ 関係機関と連携しながら誘致に取り組みます。
- ② 地域の人材が活躍できる環境をつくる
  - ▶ 体験交流事業を通して、地域の人材が活躍できるきっかけを生み出していきます。
  - ▶ それぞれの人のやりたいことやできることにあった仕事をマッチング（紹介）していく体制を充実します。
  - ▶ 住民と進出企業が交流する機会を生み出し、就職を含め、住民が企業と関わりを持つきっかけを生み出します。
- ③ 大山町に進出した企業をサポートする
  - ▶ 「大山町企業連絡協議会」を定期的に開催し、企業間の連携強化を実現します。
  - ▶ 大山町独自の資源やノウハウを活かし、既存企業の経営支援を進めます。
  - ▶ 各企業が仕事と子育てを両立しやすい職場づくりを実現するよう働きかけ、働きやすい、働きたくなる職場環境を実現していきます。

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
工業団地への企業進出数	件	16 18	20
サテライトオフィス誘致による遊休施設活用件数	件	1	5

資源や人のつながりで  
観光や商工業を盛り上げよう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

大山町には、山から海まで表情豊かな自然資源があります。また、まちを盛り上げようと取り組む人や企業・団体も多く存在しています。これらの力がつながると、ものすごいパワーになります。

各資源のいいところを掛け合わせて新しい観光メニューをつくり「大山ツーリズム」としていきます。人や企業・団体、さらには行政それぞれの得意なことを活かして、幅広く大山町の魅力を発信しています。

「大山ツーリズム」としての認知が進み、四季を通じて多様な観光客が訪れ、にぎわうまちになり、商工業も活気をとりもどしています。

まちの現状と課題

大山町には、豊かな自然環境や、農林水産業の産業資源はもちろん、文化財などの歴史的資源も豊富にあります。これらの資源は、従来から、温泉開発・観光拠点施設の整備をはじめ、観光の活性化に向けて活用されてきました。

今後さらなる活用を進めるには、大山町のシンボルである大山を主軸とした広域連携によって、さまざまなテーマを設定した体験交流プログラムによる体験型観光の展開を図る必要があります。また、観光を担う組織・人材が不足しており、組織・人材の育成も求められています。

商工業においては、個人経営の小規模な小売業が大半を占めており、近年、交通網が整備され、米子市近郊の大型店を利用する人が増え、町内の商店数が減少しています。しかし、地域に密着した商業は日常生活の利便性や地域の活性化に必要とされ、特に高齢者にとっては欠かせないものです。

消費者に魅力を感じてもらえる商店づくりや、多様化する消費者ニーズへ対応するため、商工業の経営基盤の体質強化と設備改善、技術水準向上を図るとともに、経済環境の変化に対応していくことが重要であり、引き続き、商工会をはじめ各関係団体などと連携した取り組みを強化していくことが必要です。



こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① 地域の資源やつながりを観光に活かす
  - ▶ 一次産業と連携しながら新しい体験型・交流型の観光プログラムをつくり、まち全体の活性化につなげます。
  - ▶ 町外に大山町の魅力を伝えていくには、まずそこに暮らす住民一人ひとりがその魅力を実感し、広めていくことが大切です。大山町の観光情報を町外だけでなく、町内でも積極的に発信し、誰もが大山町の魅力を語れるようなまちをめざします。
  - ▶ 大山町に日々暮らし、普段の大山の魅力をよく知っている住民自らが観光のプログラムを考え、さまざまな主体と連携しながら実現していくためのサポートも進めます。
- ② 体験型・交流型・滞在型観光が生まれやすい環境をつくる
  - ▶ 豊かな自然や農林水産資源はもちろん、それらと密接につながりを持つ歴史・文化の資源などに触れられる体験交流プログラムづくりを進めます。
  - ▶ 人や企業、団体、行政など幅広い連携体制の中、体験型観光などを進めるための環境づくりを実現します。
  - ▶ 町内の人的資源を活かし、自ら新しい観光プログラムを提案し、実現できる人材や体験指導者を発掘し、育てます。



③ いつ行っても楽しいことが  
おこっている大山町を実現する

- ▶ 大山を中心として地域全体が相互作用を生み出しながら集客力を高めていける体制を強化します。
- ▶ 観光情報を一元管理するとともに、町内外のメディアを活用して積極的に情報の発信・提供を進めます。
- ▶ すでにある観光施設をより活用していくために、改修などを通じて魅力や使いやすさを向上していきます。

④ 経営基盤の安定と  
経営体質を強化する

- ▶ 経営基盤の安定と経営体質を強化するため、商工会の経営指導と連携し、経営の改善を進めるため制度金融の充実と活用を促進します。
- ▶ 地域に根ざした商工業活動を支援するため、住民に地産地消の意識づくりを進めます。
- ▶ 商工会と連携し、経営指導支援、人材育成、講習会の開催などの活動支援の充実を図ります。
- ▶ 高齢者をはじめとする交通弱者に対する注文サービス、宅配、移動販売など、地域に根ざした商工業サービスを積極的に支援します。
- ▶ 専門分野の研究開発や技術開発・高度化の支援をします。
- ▶ **無料職業紹介所の運営による雇用人員の確保と、住民の雇用機会の増大、定住促進を進めます。**

◆主な事業

商工業の振興	<p>■商工業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会の組織運営や活動の支援</li> <li>・小口融資貸付金制度</li> <li>→小規模事業者経営改善資金(マル経資金等)の利子補給</li> <li>→無料職業紹介所の運営</li> </ul>
観光・交流の充実	<p>■観光・交流事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産業等の地域資源を活用した体験型観光プログラムの設定</li> <li>・大山開山1300年を契機とした集客力向上</li> <li>→大山と書いて“だいせん”と読ませるプロジェクト</li> <li>・一般財団法人大山観光局の支援</li> <li>・観光情報発信事業</li> <li>→大山町の観光ホームページの更新</li> <li>・スマートフォン対応WEBサイトとアプリ作成</li> </ul>
地域資源を活かした体験型観光の環境づくり	<p>■体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山ツアーデスクの支援</li> <li>・大山ツーリズム推進</li> <li>・夕陽の丘神田(鳥取県フットボールセンター)の利活用</li> <li>・地元受入体制の整備</li> </ul>
観光地の魅力の向上	<p>■事業の推進と仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山山麓観光推進協議会等広域事業</li> <li>・広域的な観光二次交通対策の実施</li> <li>・観光イベントの充実</li> <li>・日本遺産登録への推進を活用した地域の魅力向上</li> <li>・大山エコトラック事業の推進</li> <li>・集客を収入に結びつける仕組みや受け皿づくり</li> </ul>

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			→10年後
町内観光等における交流人口の増	万人	120 108.4	150
大山エコトラック商品の利用者数	人	0 1,247	2,000

普段から健康な暮らしを意識しよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

日ごろから健康を維持することができ、病気になってもよくなることへの希望が持てる。暮らしの中で困ったことが起きて、支えとなる存在を見出すことができる。これらのことをゆるぎなく信じていくことができてはじめて、私たちは日々の暮らしに安心感を覚えることができます。保健・医療・福祉、この3つの分野が密接に連携し、いつまでもいきいきと健やかに暮らすことができるまちになっています。

まちの現状と課題

大山町における平成20年から平成24年までの5年間で亡くなった方の死亡原因を平均標準化死亡率で比べると、脳血管疾患がもっとも高くなっており140.3ポイント（同期間の全国平均は100ポイント、鳥取県平均は107.6ポイント）となっています。次に心疾患（大山町119.0、全国100、鳥取県99.5）、悪性新生物（がんなど）（大山町89.0、全国100、鳥取県99.6）と続きます。このことから大山町では循環器系疾患を原因とする死亡割合が高くなっていることがわかります。

また、大山町国民健康保険及び町内在住の全国健康保険協会（協会けんぽ）被保険者の特定健康診査（生活習慣病予防検診）の結果、血圧、血糖値、血中脂質が高い人が多い状況にあります。

一方で、大山町国民健康保険は被保険者の高齢化や医療の高度化により医療費が増し、財政運営が一段と厳しい状況になっています。今後も持続的に保険制度を運営していくためには、医療費を減らすことが喫緊の課題です。

現在は、健康づくりに対する意識の高い方とそうでない方の差が広がっていますが、すべての住民が自らの健康課題を把握し、自分にあった健康づくりに自主的に取り組むことが求められています。

さらに、町内には一時医療機関が12施設（うち国民健康保険診療所は3施設）ありますが、へき地における継続した医療の確保が求められています。

こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① **ライフステージに応じた健（検）診や予防接種を実施する**
  - ▶ 病気を未然に防ぐため、住民一人ひとりのライフステージに応じた健（検）診や予防接種などを適切に実施します。
- ② **保健、医療、福祉を一体的につなぐ**
  - ▶ 普段から自分の心身の健康を気にかけて、自ら健康維持に取り組める住民を増やしていくため、普及啓発や健康保育、健康相談の機会を設けます。
  - ▶ 保健や福祉の面で支援が必要な場合は、保健、医療、福祉の分野が緊密に連携しあい、住民の生活全般を一体的にフォローしていく体制を実現していきます。
  - ▶ 健康検査の結果、特定保健指導などが必要と認められた方には積極的に保健指導を進め、健康についての意識や日々の行動の改善につなげます。
- ② **町民総健康づくり運動を進める**
  - ▶ 「食」、「運動」、「健（検）診」を柱に据えた町民総健康づくり運動を展開します。
  - ▶ 町民総健康づくり運動は、食、運動といった健康づくりに関係のある地域や民間の組織・団体及び集落の保健推進員、福祉推進員や食生活改善推進員などと緊密な連携を図りながら取り組みます。

④ 地域医療・保健を充実させる

- ▶ 地域医療を存続させるため、医師の確保に取り組みます。
- ▶ 地域の医療機関との連携を強め、地域医療や保健の充実を図ります。
- ▶ 健（検）診や保健指導の充実を図ることで、生活習慣を原因とする疾病の重症化の予防やがんなどの早期発見、早期治療に結びつくよう努めます。

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
国保加入者における特定健診受診率の増	%	34 30.4	60
国保加入者における特定保健指導実施率の増	%	24 48.1	45 60

【関連する部門計画】

- ・大山町地域福祉計画・大山町地域福祉活動計画
- ・大山町高齢者福祉計画・介護保険計画
- ・大山町特定健康診査等実施計画



困ったときに困ったと言い合える  
関係性をつくろう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

困った時に誰かに困ったといえる。逆に周りの誰かが困っている時はお互いさまで支える。かつてはあたりまえだった、助け合って暮らす地域に立ち戻る必要があると考えます。地域でそんな体制がしっかり整い、在宅で質の高い介護や福祉サービスが受けられるようになっていけば、歳を重ねても、住み慣れた地域や家で安心して暮らし続けることができるでしょう。よく知った場所で、よく知った人たちに囲まれて暮らす、そんな生活が実現できる大山町になっています。

まちの現状と課題

少子高齢化、家族構成やライフスタイル・価値観の変化、より多くの人に社会進出の機会が広がったこととともなって、専門家だけでは対応しきれない福祉の課題が出てきています。誰もが身近な地域で安心して暮らせるように、住民・関係機関・行政が役割分担・連携しながら、地域で支え合う関係性を築いておくことが求められています。

介護の面では、介護サービスの利用者が増え続け、介護サービス費の給付額も上昇しています。本来は、介護予防に積極的に取り組む人が増え、介護サービス費が抑えられることが理想的ですが、実際は、積極的に介護予防事業に参加する必要性を理解し、行動している住民は少ないのが現状です。

要介護状態にならないための心がけや、困った時に地域内で助け合える関係性を普段からつくっておくことが重要です。

また、要介護者がどんな状態にあっても、その権利が正しく守られるよう、関連する事業や制度の利用を促すとともに、何か起こった際もすぐに対応できる体制が必要です。

こうなったらいいな、  
を実現するために

① 住民、行政が連携した小さな単位での地域福祉活動を進める

- ▶ 福祉施設や公民館を核として、地域の福祉拠点での支援体制を充実させ、集落単位など、地域コミュニティを基盤とした小さな単位での福祉ネットワーク活動の支援を進めます。
- ▶ 住み慣れた家で、暮らし続けたい。そう考える人が増えてきています。そのニーズを満たすため、在宅での看取りができる専門知識を持った人材を確保するとともに、民間事業者・ボランティア団体などとの連携体制をより強化していきます。
- ▶ 地域福祉を担う住民活動団体を育て、その活動をサポートします。こうした団体が、地域のつなぎ役になり、住民が自らの力で福祉活動を進め、支え合う地域づくりをめざします。
- ▶ 高齢者福祉機関と学校・地域などが積極的に連携し、地域での福祉教育を広め、地域に開かれた高齢者福祉のシステムづくりを進めます。

② 地域包括ケアシステムの構築

- ▶ 要介護状態にならないように介護予防を充実させるとともに、介護が必要になった時に充実したサービスが受けられるよう、各事業者・施設と連携し、指導・助言を行っていきます。
- ▶ 町内の医療機関、大学病院などの専門機関と、現場で活動する地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などとの連携を図り、必要な医療・介護サービスを継続的・一体的に受けられるよう在宅医療と介護の連携を進めます。
- ▶ 豊かに笑顔で暮らし続ける環境を実現するには、高齢者個人の暮らしだけでなく、その人を取り巻く地域の環境も含めて考えていく必要があります。地域ケア会議では、そうした個人を支える周りの環境にも配慮した地域ケアの総合的な調整や提言を行っていきます。
- ▶ 高齢者のニーズに対応した多様な生活支援サービスや介護予防を目的とした介護予防・日常生活支援総合事業を引き続き行います。
- ▶ 地域において、人権や尊厳が守られ、安心して生活ができるよう支援するとともに、成年後見制度や日常生活支援事業の普及を図ります。

◆主な事業

住民意識の高揚に向けた啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>■調査、情報提供、啓発（広報）活動の推進</li> <li>■福祉教育（学習）の推進</li> </ul>
住民参加・参画による地域福祉活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域福祉活動への住民参加の促進</li> <li>■ボランティア活動の振興</li> </ul>
生活に不安を抱える高齢者・障がい者等の支援活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢者、障がい者及び児童・子育て等の支援の推進</li> <li>■総合相談体制と福祉サービス利用者支援体制の整備</li> </ul>
地域福祉のネットワーク化と連携・協働活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■関係団体によるネットワークと協働体制の確立</li> <li>■福祉ニーズに基づくサービス提供支援の推進</li> </ul>
社会福祉協議会の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■住民組織地域福祉を推進する団体としての体制・基盤整備</li> </ul>
高齢者福祉施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■財政基盤の強化</li> <li>■地域包括ケアシステムの構築</li> <li>■新しい介護予防・日常支援事業（「総合事業」への移行）</li> <li>■介護予防事業の推進</li> <li>■高齢者福祉サービス（生活支援）の充実</li> </ul>

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
介護保険の居宅介護サービスの利用率	%	<del>10.9</del> 9.9	11.0

【関連する部門計画】

- ・大山町地域福祉計画・大山町地域福祉活動計画
- ・大山町高齢者福祉計画・介護保険計画

障がいのあるなしに関わらず、  
自分らしい暮らし方を楽しめるまちにしよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

障がいのある人もない人もお互いに尊重し、理解し、助け合うことができる。それぞれができることに応じて、自立した生活や社会参加の形を見つけることができる。誰もが、自らの意思で自分らしい暮らし方を選択できる大山町になっています。

まちの現状と課題

近年、高齢化の進展とともに障害者手帳を持つ人の数は増加傾向にあり、障がいの重度・重複化や障がいのある人の高齢化も進んでおり、家族介護が困難な独り暮らし高齢世帯や、高齢者だけの世帯に対する配慮が求められるようになっていきます。

そんな中、平成22年に障害者自立支援法等の改正法が施行され、支援サービスの新設・変更と相談支援体系の見直しが行われました。平成25年からは、障害者の日常生活及び社会生活を支援するための法律（障害者総合支援法）ができたことにより、障がい者（児）の定義に新たに政令で定める難病などが追加され、障害福祉サービスなどの対象となっています。平成26年からは、障害支援区分の創設、ケアホームのグループホームへの一元化などが実施されました。

また、障がいがあってもなくても、誰もが分けへだてなく、お互いを尊重して差別の解消を図り、だれもが安心して暮らせる豊かな共生社会の実現につなげることを目的として障害者差別解消法が平成28年4月から施行されています。

障がいのある人が地域で安心して暮らせる社会を実現するためには、福祉サービスの一元化や就労支援の強化などが不可欠です。そのためには、行政だけでなく事業所、住民など、地域全体で生活を支援する環境が求められています。障がいの有無にとらわれず、誰もが自分らしさを尊重され、自ら選択した暮らし方を楽しむことのできる環境づくりが必要です。

また、障がいを持った人がどんな状態にあってもその権利が正しく守られるよう、関連する事業や制度の利用を促すとともに、何か起こった際、すぐに対応できる体制も必要です。

こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① **誰もがもつ暮らしを楽しむ権利を大切に**
  - ▶ 障がいのあるなしに関わらず、すべての人は、他の人たちと同じように、日々の暮らしを楽しむ権利があります。その権利を守るために、地域内あるいはさまざまな制度を通じて、それぞれができることを活かして暮らしをサポートしていく必要があります。そうしたノーマライゼーション※の理念を広く伝え、その意義を町内で共有していきます。
  - ▶ 保育所や小中学校において福祉教育を進めます。
  - ▶ 生涯学習でも障がいに関する正しい知識を身につけ、理解を深めるための講座などを開催します。
- ② **地域の中で自分らしい暮らしができるための環境をつくる**
  - ▶ 社会福祉協議会や行政、住民、各障がい者関連サービス事業所、相談支援事業所などの幅広い連携により、地域の中で柔軟な生活支援ができる体制を強化します。
  - ▶ 障がい者福祉団体の活動をサポートし、団体同士の交流を図ります。
  - ▶ 地域の中で教育が受けられ、働くことのできる環境づくりをサポートします。

※ ノーマライゼーション…障がいをもつ人もたない人が同じように生活できる社会を実現させる考え方。

◆主な事業

啓発・広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>■福祉教育の推進</li> <li>■障がいについての啓発・広報活動の推進</li> <li>■ボランティア活動の推進</li> <li>■各種障がい者団体に対する支援</li> </ul>
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■相談支援体制の充実・強化</li> <li>■障害福祉サービス等の提供体制の整備</li> <li>■障害福祉サービス等の充実</li> <li>■地域生活支援事業の充実</li> </ul>
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■公共施設等のバリアフリー化</li> <li>■移動手段の確保</li> <li>■一貫した相談・支援体制の充実</li> </ul>
教育・育成、文化・芸術、スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■保育士・教職員の専門性の向上</li> <li>■文化・芸術、スポーツ活動と地域交流の推進</li> </ul>
雇用・就業・経済的自立	<ul style="list-style-type: none"> <li>■就労継続支援事業所の活動に対する支援</li> <li>■就業支援施策の推進</li> <li>■障がい者雇用の推進</li> </ul>
保健・医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>■職員の専門性の向上</li> <li>■障がいの早期発見・早期療育体制の整備</li> <li>■障がいの原因となる疾病等の発生予防の推進</li> <li>■心の健康づくり</li> <li>■医療費等助成制度の実施</li> </ul>
情報・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コミュニケーション支援体制の充実</li> <li>■情報提供充実・情報バリアフリー化の推進</li> </ul>
権利擁護事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■虐待防止、対応体制の整備推進</li> <li>■成年後見人制度利用支援事業の継続実施</li> <li>■社会福祉協議会との連携による地域福祉権利擁護事業 日常生活自立支援事業の周知と利用促進</li> </ul>

【関連する部門計画】

- ・大山町地域福祉計画・大山町地域福祉活動計画
- ・大山町障がい者プラン  
(大山町障害者計画・大山町障害福祉計画)

「障害」の表記について「大山町障がい者プラン（平成27年）」より  
 「障がい」 - 単語あるいは熟語として用いられ、前後の文脈から人や人の状態を表す場合  
 「障害」 - 「障害」と表記することにより、その用語の持つ意味が失われたり誤解される恐れがある場合（例：法令等の名称、他の機関・大会等の固有名称、医学用語等の専門用語として用いる場合、著作物を引用する場合）



社会保険制度を  
みんなで支え合おう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

暮らしを支える社会保障制度がきちんと運営されるにはまず、大山町で暮らす私たち一人ひとりが、その内容を理解し、みんなでその仕組みを支えていくことの大切さを実感していることが必要です。ただ頼るのではなく、支え合うことで、制度をよりよいものにし、安心して暮らせるまちになっています。

まちの現状と課題

国民健康保険や国民年金といった公的制度は、私たちの健康や将来の安心を確保する重要な役割を担っています。しかし、少子高齢化や産業構造の変化などの影響を受け、国民健康保険事業を取り巻く状況は厳しくなっています。特に急速な高齢化や医療技術の高度化に伴い、医療費が増える一方、国民健康保険税収納率の低下や低所得被保険者の増加など、収入と支出のバランスが難しくなっている現状があります。

さらに、国民年金については、各地域で少子高齢化が進む中、世代間での負担の不公平感や、将来本当に年金がもらえるのかといった制度に対する不安感が募っています。

国民健康保険事業については、増加する医療費をどう抑制するかを考えるとともに、収入と支出のバランスがとれた運営の方法を考えていく必要があります。

国民年金制度については、みんなで支えていくべき大切な仕組みであることを住民一人ひとりが理解していくため、制度を周知していくとともに、制度についての相談を受ける機会を増やすことも求められています。



こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① 国民健康保険事業を健全に運営する
  - ▶ 納税相談の機会を増やすなどして、国民健康保険税の収納率の向上を図ります。
  - ▶ 特定健康診査・特定保健指導などの健康づくり事業などを通じて、普段から住民一人ひとりが自分の健康のことを気にかけるきっかけをつくり、医療費を抑制することで、国民健康保険事業の健全な運営につなげます。
- ② 年金制度についての理解を深める
  - ▶ 国民年金制度に対する住民の理解を深めるため、制度の周知や広報活動、相談を受ける機会を増やしていきます。

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
国民健康保険税の収納率	%	94.5 96.3	95.0
後発医薬品 <sup>※</sup> 使用割合 (数量シェア)	%	47.1 69.2	80.0

※ 後発医薬品…ジェネリック医薬品。先に製造・供給されている医薬品の有効成分に対する特許が切れた後に、同じ主成分を使って他の製薬会社が製造・供給する後発の医薬品。

新しい家庭を築くことに  
希望が持てる環境をつくろう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

すてきな出会いがあること。新しい家庭を築き、家族を増やすことをためらわずに決心できること。それには、制度的なサポートと地域全体で支え合う体制が必要です。だれもが、結婚・妊娠・出産・子育てに希望を持てる大山町になっています。

まちの現状と課題

町内では、若者同士が出会う場が少ないという声を聞きます。まずは、若者が行ってみたいと思うようなイベントの開催や、気軽に訪れることのできる集いの場を用意するなどし、結婚へつながる出会いの機会をつくる必要があります。

なお、大山町ではこれまで、子育て支援を積極的に進めてきており、子どもを生み、育てやすい環境は充実しています。しかし一方で、子育てによって身体的・精神的・経済的な負担が増えるのではないかと、出産・育児によって社会との関りが少なくなるのではないかと、といった不安感などから、子どもを生み育てることをためらう人が少なくありません。

これらの課題は、制度的な支援と、地域みんなで子どもを育てるという発想で少しずつ解決できるのではないのでしょうか。結婚後も社会や地域と関わることのできる環境。多様な働き方に対応したきめ細かい保育サービスや保育料の負担軽減。安心して子どもを任せることのできる保育環境。妊娠、出産から子育てまで、一連の流れでサポートする体制。結婚・出産後も、そして、地域の人たちが子どもと一緒に見守ってくれるという安心感。こうした一つひとつの要素が、結婚し、子どもを生み、育てる気持ちを後押しするきっかけになると期待されます。

また、虐待などにより支援や保護が必要な子どもたち、障がいがある子どもたち、ひとり親家庭など、それぞれの事情を抱える状況に合わせて、地域が一体となってサポートし、子どもが笑顔で育つことのできる環境をより充実していく必要があります。



こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① 自然に出会うことのできる場をつくる
  - ▶ 町内の人材や地域資源を活用し、楽しみながら自然な出会いのある場づくりを進めます。
- ② 妊娠・出産に希望と安心感を持てるサポートを実現する
  - ▶ 医療費の助成制度や子育ての支援などの情報提供を進めます。
  - ▶ 妊娠中・出産後・子育て中の住民同士が気軽に集い交流することのできる場を充実します。
- ③ 安心して保育サービスを受けられる環境をつくる
  - ▶ 子どもを持つ親たちが安心して保育サービスを利用できるよう、継続的な研修や情報交換により、関係職員の能力向上を図ります。
  - ▶ 町内の自然や人材など、地域資源を活用して、特色ある保育サービスを展開します。
  - ▶ 乳児保育・一時保育・延長保育・病児や病後児保育・放課後児童クラブなど、いろいろなニーズに対応した、保育サービスの充実を図ります。
  - ▶ ファミリー・サポート・センター事業、子育てサークルやボランティアの活動支援、子育て相談体制、子育て環境づくりに関わる人材の育成を進めることで、身近なところで気軽に保育サービスを受けられる環境を充実します。

#### ④ 地域みんなで子育てする

- ▶ 保育所・学校・地域子育て支援センター・児童館などと地域で進められている、いろいろな活動が相互的に連携していくことで、地域みんなで子育てをしていく環境をより充実します。
- ▶ 健康相談や検診体制の充実など、親や子も健やかに暮らすためのサポートを進めます。
- ▶ 児童虐待・DVを防止するため、要保護児童対策地域協議会を活用し、要保護児童※を支援する地域のネットワークを強化します。

#### ⑤ ひとり親家庭のサポートを充実させる

- ▶ ひとり親家庭などが安定した生活が送れるよう、各種助成制度や貸付制度の情報を伝え、積極的に活用してもらえようサポートします。
- ▶ 民生児童委員や関係機関と連携し、生活・教育・仕事など日々の暮らしのさまざまな不安、心配事を気軽に相談することができる体制を充実します。

#### 【関連する部門計画】

・大山町子ども・子育て支援事業計画

※ 要保護児童…児童福祉法に基づいて保護を要すると定められた児童。

## IJUターンの受け皿となる かっこいい住まいをつくろう



### こうなったらいいな、 10年後の大山町

日々の暮らしの基盤となる住環境には、利便性はもちろん、「かっこ良さ」も大切だと思うのです。住んでいる人が思わず人に自慢してしまうような、そしてわざわざ外から人が移ってくるような、そんな暮らしやすくかっこいい住環境が充実しています。

### まちの現状と課題

大山町では、道路、上下水道、廃棄物対策など、日々の暮らしに必要な環境基盤を整備し、暮らしの快適性を実現してきました。

住宅については、宅地開発や町営住宅の整備をおこなってきましたが、近年は人口減少にともなって空き家が増える一方、駅やインターチェンジ、役場周辺など、利便性の高い地域での宅地整備を求める声も強くなっています。

また町では、移住定住推進及び空き家対策として、移住交流サテライトセンターの設置や、移住定住に向けた各種施策を推進し、大山町へIJUターンする若者の増加につながっています。空き家を含め、大山町に住み続けたい人とIJUターンを考えている人たちのライフスタイルや感性にあった、利便性が高くデザイン的に魅力的な住まいを提供していくことが必要です。

さらに、ハード面だけでなく、子育てや教育環境など、家族が増えても安心安全に暮らし続けるために必要な、ソフト面でのサポートも進めていかなければいけません。

### こうなったらいいな、 を実現するために

- ① **民間の力をとりいれた住みやすくかっこいい住まいを提供する**
  - ▶ 公的機関や民間事業者と協力しながら、分譲住宅の整備を進め、ニーズに応じた住宅地を提供します。
  - ▶ 民間の宅地開発を誘導するため、候補地を検討し、支援を行います。
  - ▶ 町営住宅の改修に取り組み、若者のライフスタイルに合った、住みやすくかっこいいと感じる住宅の供給をめざします。
  - ▶ 住まいの周辺の環境も快適にするため、コミュニティの場となる公園や広場などの公共空間も、人が集いやすく、利用しやすいスペースとなるよう、維持管理を進めます。
- ② **ずっと大山町に住み続けたい環境をつくる**
  - ▶ 地域の空き家・空き地の情報を整理し、若者が魅力的に感じる物件の情報を精査して伝え、IJUターンの増加につなげます。
  - ▶ 子育て、教育、福祉など、大山町に住み続けるために必要なサポートを地域が一体となって進めます。
  - ▶ 産業の活性化や企業誘致などを通じ、町内の仕事の選択肢を増やすとともに、季節労働をはじめとした地元企業の求人情報の提供や仕事に関する相談体制を充実します。

### ◆主な事業

移住定住 促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 民間活力等を活かした、宅地開発の推進</li> <li>■ 民間活力を活かした現場の相談窓口である「移住交流サテライトセンター」の強化・継続運営</li> <li>■ 移住相談会への参加、先進地視察研修の実施</li> <li>■ 町外からの移住・定住に係る相談窓口の継続運営</li> </ul>
--------------	--

### 【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
分譲宅地の整備	区画	— 83	35 120
空き家バンクを利用した新規移住者数（年間）	人	20 74	50 80



大山町の魅力や暮らしやすさにつながる土地利用を実現しよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

土地を守ることは、まち全体を守ること。大山町の貴重な資源である土地資源をどのように利用するかは、まちの将来を大きく左右する問題です。町内にどんな土地があり、それをどのように活用するのが一番よいのか。地籍調査を通じてそれぞれの場所の基礎データが整理され、大山町の魅力や暮らしやすさにつながる土地利用が実現されています。

まちの現状と課題

大山町の土地利用状況は、総面積189.83km<sup>2</sup>のうち林野が29.8%を占め、農地24.4%、宅地3.1%と続いています。なお、その他が41.5%ありますが、これは広大な国有林や保安林があるためです。

本町には大山隠岐国立公園があり、自然環境を活かした観光交流地域として利用されています。農地は、山岳地や丘陵地を除いてほぼ全域にあり、大山山頂から広がる国立公園地内は自然公園法により無秩序な開発が防がれています。

土地利用の状況を把握する基礎データとなる地籍調査は、名和地区については、昭和34年から昭和47年で完了していますが、中山・大山地区においては平成6年に調査を開始しています。平成26年度末時点の町全体の進捗率は、調査が必要な面積（国有林等除く）164.44km<sup>2</sup>の50.0%にとどまっています。

今後、限りある町内の土地資源をよりいっそう有効に活用し、大山町の魅力や暮らしやすさにつなげていくには、活性化のために活用する場所、貴重な自然環境や一次産業の生産地として積極的に保護する場所など、用途に分けてそれぞれの使い方を見据える必要があります。

現在実施している地籍調査のさらなる推進と、計画的な土地利用を進めていくことが求められています。

こうなったらいいな、  
を実現するために

① 自然環境に配慮して土地利用する

▶ 森林・農地・宅地など土地の用途をそれぞれ変える時には、自然と調和し環境保全に配慮した土地利用に努めます。

② 地籍調査を継続的に実施する

▶ 地籍調査を進めるには、土地の持ち主である住民の理解・協力が欠かせません。大山チャンネルやホームページなどを利用し、地籍調査の重要性を伝えるための広報を進めていきます。

▶ 一筆調査を業務委託することにより進捗を図ります。

◆主な事業

地籍調査事業	■毎年新規着手目標面積を3.0km <sup>2</sup> とし事業を推進
--------	--

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
地籍調査事業実施面積	km <sup>2</sup>	82.25 93.33	113.00
			109.00
地籍調査事業進捗率	%	50.0 56.7	68.7
			66.3

すでにある交通インフラ資源を暮らしの安全性や快適性につなげよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

道路は家に例えると「廊下」の役割を持っています。その「廊下」が移動しやすいと、つついまちの色々なところに出かけたくなる。「廊下」が美しいと、まち全体がいとしくなり、自分もきれいに使おうと思う。大山町内の道路網がきちんと維持・管理され、私たちの暮らしやすさや安心安全につながっている。そんな大山町になっています。

まちの現状と課題

大山町では、高速交通網、幹線道路網の整備が完了しています。国道9号も、高速交通網の整備により、快適に利用できるようになりました。一方、町道は国・県道を補完しているため、住民の生活に密着した安全で快適な道路として計画的に整備していく必要があります。

※ インフラ…インフラストラクチャーの略。産業や生活の基盤として整備される施設。

※ インフラ…インフラストラクチャーの略。産業や生活の基盤として整備される施設。

※ インフラ…インフラストラクチャーの略。産業や生活の基盤として整備される施設。

こうなったらいいな、  
を実現するために

① 高速道路網を継続的に維持管理する

▶ すでに高速道路網の整備は完了しているため、今後は、どう安全性を保ち続けるか、国と連携し継続的に維持管理していく方法を検討します。

② 幹線道路網をもっと便利にする

▶ 町内の幹線道路である国道9号の利便性と安全性を向上させるとともに、観光や産業分野において重要な役割を果たす町内の拠点施設と、振興エリアを結ぶ幹線道路の整備を国・県と連携して進めます。

▶ 町内をはじめ、町外との交流の軸となる道路網の整備に取り組みます。

③ 生活道路網を継続的に維持管理する

▶ 町道をはじめとした各道路網の計画的な点検や橋梁などの修繕・架替えを行い、安心安全に利用することのできる環境をつくりまします。

▶ 除雪車を定期的に更新し、積雪時でも安全に通行できるよう努めます。

◆主な事業

道路除雪事業	■除雪車両の整備
道路新設改良事業	■坊領向原線、 <del>退休寺線</del> 、 <del>人權交流センター線</del> 、 <del>下坪田山村線</del> 、 <del>中山インター線</del> 、 <del>末長妻木線</del> など、生活路線を中心とした道路網の充実
橋梁長寿命化修繕事業	■施設の延命化と安全性の向上

【関連する部門計画】

・大山町橋梁長寿命化修繕計画

目の前のかげがえのない風景を  
自分たちで守ろう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

ふと窓の外に目を向けると飛び込んでくる雄大な大山。夕陽に赤く染まる日本海。星座もわからないくらいたくさんの星。これらの風景が、日常の中にあたりまえに溶け込んでいて、でもそのありがたさをみんなが実感している。この風景を守るための行動を、一人ひとりがふだんの暮らしの中で実行している。そんな大山町になっています。

まちの現状と課題

大山町には、人と自然の関わりを物語る美しい景観が随所に見られます。人と自然が共生しながら育まれてきたかけがえのない自然環境や豊かな農村風景は、大切に後世に残していかなければいけません。これまで、環境保全のために、公害防止協定などにより公害の未然防止に努めてきました。

今後、自然環境や景観を、住民・団体・企業・行政が連携しながら守っていくには、まず、大山町に関わる誰もが、あたりまえに溶け込んでいる風景に誇りを持ち、自分たちで守っていく意思を持つことが大切です。そのためには、あたりまえの良さに気づききっかけづくりも重要です。

こうなったらいいな、  
を実現するために

① 海もある、山もある  
大山町ならではの自然を大切に

- ▶ 日々の暮らしの中で、行政と住民が一体となって環境保全やまちの美化活動に継続して取り組みます。
- ▶ 大山町は大山山頂から日本海まで続いています。その中に森や川、農地などの表情豊かな資源が含まれています。これはとても貴重なことです。この独自性を町内外にアピールし、自然環境の保全に理解してくれる人、協力してくれる仲間を増やしていきます。
- ▶ 開発を進める際は、地域住民の意向と周辺の自然環境や景観への影響を最大限に配慮し、公害発生を未然に防ぎます。
- ▶ 工業団地の整備や工場建設などの場合は、公害防止協定や開発協定を締結し、住民の理解を得るとともに、公害の未然防止・環境保全に努めます。

◆主な事業

環境保全への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ボランティア清掃の実施</li> <li>■不法投棄パトロール・撤去の実施</li> </ul>
----------	--

人にも自然にも優しい  
エネルギーとの付き合い方を考えよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

環境に負担をかけない暮らしはとても大切です。しかし、それを実現するために、無理をしていたり、苦しい思いをしていたりしたら、きっとその暮らしは長続きしません。無理なく楽しくおしゃれで、でも環境に配慮されている。そんな、人にも自然にも優しいエネルギーとの付き合い方を、大山町から発信している。

また、住民だけでなく、企業・行政など、そこで暮らし活動するすべての人が、自分たちの使うエネルギーについて意識し、自然エネルギーへの転換や省エネルギー・省資源に取り組んでいるまちになっています。

まちの現状と課題

近年、環境問題への関心が高まり、従来型の、技術革新による生産性重視の観点から、自然環境との共生をめざすための自然エネルギーの推進や循環型エネルギーの開発が進められています。

大山町では、町営の風車「**太空海号**」※を自然エネルギー活用のシンボルとしています。今後はさらに、**太陽光や薪ストーブなどの**自然エネルギーへの転換や省エネルギーの取り組みを推進し、環境にやさしい暮らし方や事業活動を定着させる必要があります。住民・企業・行政が連携して、自然エネルギーへの転換や省エネルギーの取り組みを進めていくことが重要です。

※ 太空海号…平成17年（2005年）に大山町高田に建設された風力発電用風車。羽根を含めた全高は118.5mで、年間の発電量はおよそ800世帯分の消費電力に相当する。

こうなったらいいな、  
を実現するために

① 自然エネルギーを積極的に取り入れる

- ▶ 自然環境に配慮しつつ、太陽光・風力・バイオマス・小水力発電などの自然エネルギー設備の導入を推進します。
- ▶ 新エネルギー・省エネルギーを浸透させるために、自然エネルギー設備導入に対する支援を行います。
- ▶ 電気自動車の普及啓発と二酸化炭素排出量削減の観点から、公用車として電気自動車の導入を検討します。
- ▶ 日常生活の中で、無理なく、おしゃれに新エネルギーの活用や省エネルギーに取り組むライフスタイルの実現を進めます。

◆主な事業

太陽光発電等導入促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新エネルギーや省エネルギー設備の普及促進</li> <li>→住宅用太陽光発電システム等設置補助</li> <li>→薪ストーブ等設置補助</li> </ul>
------------	--

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
薪ストーブ等の設置補助件数	件	7	60

【関連する部門計画】

・大山町地域新エネルギービジョン



町内のつながりで  
資源循環の輪をつなげよう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

ごみも資源として活用してしまう。その発想があたりまえにあるまちをめざしたいと思います。それぞれが出したごみに責任を持ち、町内のつながりを活かして資源が再利用される。そんなまちになっています。

まちの現状と課題

私たちが享受している資源は無尽蔵でないことは、今や誰もが知るところとなりました。大量消費型社会から資源循環型社会へ転換を図り、持続可能なまちづくりを推進していく必要性があります。地球温暖化に起因する自然災害も、持続可能なエネルギーへの関心を深めるきっかけになっています。

豊かな自然の恵みを享受している私たちができることは何でしょうか。できるだけごみを出さないようにし、自分の出したごみに責任を持つことだと思います。できるかぎり資源をリサイクルし、町内で資源を循環させることだと思います。一人ひとりが普段の生活の中で少し習慣を変えれば、それが大きな変化につながります。

さらに、身近に存在する間伐材などの地域資源を活用する取り組みにより、地域の中で資源をうまく活用していくことが必要です。

こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① まち全体がつながって資源のリサイクルに取り組む
  - ▶ 家庭や企業から出されるごみを減らすため、まだ利用できるけれど使わなくなったものを、町内で再利用する取り組みを進めます。
  - ▶ 住民同士が使わなくなったものを交換・共有しあい、町内で再利用が進むように、コミュニティの形成をサポートします。
  - ▶ イベントなどを通して、住民が楽しく資源リサイクルに親しみ、取り組むことのできるきっかけづくりを進めます。

情報通信環境を上手につかおう



こうなったらいいな、  
10年後の大山町

充実したインターネット環境が整っていることは大切。でも、その環境を何のためにどう使うかをきちんと見据えていることがもっと大切です。小さなころから、情報との上手な付き合い方を知っていて、自分なりの活用方法を身につけている人が増えればいいと思います。10年後には、より充実したインターネット環境が整っていて、高速ネットワークを活用している人がたくさんいて、物理的な距離を超えたさまざまな情報のやり取りを、地域のためにも役立っている。そんな大山町になっています。

まちの現状と課題

大山町では、これまでの情報通信基盤の整備により、高度情報化社会に対応した基盤整備が完了し、高速インターネット接続サービスが、さまざまな分野で活用されています。

インターネットなどの先端技術を活用することは、地域コミュニティの再生や地域活性化などの手段としても、非常に有効です。今後は、これらの技術を活用してまちづくり活動をする人を増やしていくための取り組みを、いっそう充実させることが必要です。

また、遠隔地でも仕事ができる企業の誘致や、観光客へのインターネット環境の提供など、新しい時代のニーズにあった情報通信環境の整備が必要です。

こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① 情報通信サービスを活用する
  - ▶ 福祉や防災などの分野で高度情報通信環境を活用し、日々の暮らしの安心安全につながる取り組みを検討します。
- ② 情報通信サービスをより使いやすくする
  - ▶ 情報通信サービスに加入している人の動向を把握し、時代のニーズにあった環境を整えるためのよりよいインフラの整備をめざします。
  - ▶ 光ファイバー回線を利用して、**同じサービス加入者相互の国内無料通話が可能となるシステムを導入し、**コミュニケーションをとりやすい環境をつくります。
  - ▶ 高度情報通信環境を活かして、企業活動の活性化を図ります。
  - ▶ 高齢者など、情報通信機器に接する機会が少ない住民を対象に、使い方を知ってもらう機会を提供します。

◆主な事業

高度情報通信基盤の再整備によるサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>■超高速インターネット環境の整備</li> <li>■無料通話システムの導入</li> </ul>
情報通信機器に親しむ機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>■タブレット端末活用セミナー等の開催</li> </ul>

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
インターネット加入件数（町有光ファイバ-分）	%	27 48.3	37 50.0



移動も共有して  
安心安全な交通環境を実現しよう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

さまざまなものが共有される時代。移動手段もいろいろな人と共有することで、効率性が高まります。住民は普段どんな移動をしていて、それはどのような交通手段で対応するのがよいのか。その時の大山町の状況や住民ニーズにあった公共交通が提供されているまち。また、交通安全や自然環境にっそう配慮したまちになっています。

まちの現状と課題

平成21年度に実施した住民アンケート調査の結果、公共交通の重要度は比較的高いと評価されましたが、満足度は最も低いという結果でした。そこで、平成22年度にはすでにある交通手段が輸送ニーズと合っているかについて調査し、公共交通のあるべき姿を見直す検討を始めました。

現在、デマンドバス（予約型交通）は町内167全ての集落の、あわせて約390箇所の乗車場所から、医療機関や商店、金融機関、役場、JRの駅や主なバス停など、町が定めた約80箇所の目的地の相互間、及び目的地と目的地の相互間で利用されています。また、本町の自然環境を守るため、電気自動車5台を使用しています。

交通事故の現状については、これまでの交通安全啓発活動が功を奏し、減少傾向にあります。特徴的なこととして、犠牲者、加害者ともに高齢者の占める割合が高くなってきています。

今後も引き続き、住民の輸送ニーズに合った、効率的な公共交通のあり方を検討するとともに、環境にも配慮した交通環境を実現していく必要があります。

さらに、高齢者に対する運転者教育をはじめとして、安全意識のさらなる向上や交通安全施設の充実など、交通事故を未然に防ぐための総合的な対策が必要です。



こうなったらいいな、  
を実現するために

① デマンド交通を積極的に利用する

▶ デマンド交通など、地域のニーズにあった運行方法により、住民ができるだけストレスなく、行きたいところに行ける、満足度の高い公共交通サービスを提供します。

▶ 広報や各種団体への案内などを通じ、より積極的に公共交通機関を利用するよう呼びかけを進めます。

▶ これまでの取り組みを受け継ぎ、継続して環境対応型の自動車の積極的な導入を進めます。

② 共助交通の利用を考える

▶ 住民同士が助け合い、送迎する共助交通<sup>※</sup>の導入を検討します。

③ 安全に利用するために道路環境を整える

▶ 事故が多発する地点や通学路など、特に交通の安全を確保する必要がある箇所には、歩道設置や道路改良を検討するとともに、道路標識や防護柵・カーブミラーの整備など、安全な道路環境を整えます。

※ 共助交通…過疎地域などの公共交通空白地域における、住民生活の助け合いによるきめこまやかな交通手段。

④ 交通安全の意識を高める

▶ 高齢者の事故対策として、**運転免許証の自主返納の促進を図るほか**、警察や町内の団体と連携し、交通安全教室などを実施します。

▶ 早朝・夜間の歩行者などに対する夜光反射材の利用やチャイルドシートの着用効果を伝え、交通安全の意識を高めます。

▶ 保育所・学校・地域・職場などでそれぞれの実態に応じた交通安全教育を進め、地域全体で交通安全の意識を高めます。

▶ 広報誌や防災行政無線、大山チャンネル、交通安全指導車などを活用し、普段から交通安全の意識を高めます。

▶ 各種交通安全運動を推進するため、住民・団体・企業などと連携しながら、地域の自主的活動をサポートします。

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
予約型交通（デマンドバス）利用者数	人	7,275 5,301	7,600 5,500

—【関連する部門計画】—  
→大山町交通安全計画

私たちの健康な暮らしを支える  
自然を守ろう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

水と心地よい暮らしは切っても切れない関係です。安心安全な水を安定して利用できることは本当にありがたいこと。自然の恵みを楽しんで暮らす私たちは、そのことに感謝し、限りある資源を有効に使う方法を一人ひとりが考え、実行していかなければいけません。ごみをできるだけ出さない。分別して捨てる。ごみも資源として活用する。そんな暮らしがあたりまえにできる大山町になっています。

まちの現状と課題

上水道は、これまでの取り組みにより、安全な水の安定供給に必要な整備はほぼ完了しています。今後は、安全でおいしい水を供給するネットワーク（相互給水）を確立し、地震や水質汚染などの災害時でも被害を最小限に抑えるための備えを進めていく必要があります。

下水道は、施設の最も古いものでは昭和63年から供用開始しています。これらの施設は経年劣化による老朽化が進んでおり、施設機能を保全していくためには延命化が必要です。また、将来の人口減が予測されるため、施設の維持管理費などが課題となっています。

環境問題では、社会全体の動向として、環境への負荷が少ない循環型社会の形成に、住民の関心が高まっています。

大山町においては、可燃ごみについては町内の焼却施設と米子市の焼却施設とで処理を行い、15種類の分別収集や**使用済み家電製品家電リサイクル法対象品**（4品）などのリサイクル推進に取り組んでいます。人口が減少する中、町内のごみ排出量は横ばいの状況ですが、環境への負荷が少ない循環型社会を形成するため、ごみのさらなる減量化を図ることが重要です。また、ごみの再生利用を推進するため、ごみの分別の徹底も求められます。さらには、町内の焼却施設の維持管理費を軽減していくとともに、施設を長く使っていくための方法も考えなければいけません。



こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① **良質な水を安定して届ける**
  - ▶ 定期的な水質検査、配水流量や配水池水位の監視、施設の安全管理や水道管の修繕などにより良質な水の安定的な供給に努めます。**また、災害に強い水道施設の整備、改良に取り組みます。**
- ▶ ~~同じサービスを提供するため、事業を統合し、災害に強い水道施設の整備、改良に取り組みます。~~
- ② **下水道施設を長く使う方法を考える**
  - ▶ 下水道施設の実態調査結果などに基づき、経年劣化した施設の延命化を検討し、計画的な更新や修繕を行い機能保全に努めます。
  - ▶ 人口減少に対処するため、下水道施設の統廃合の検討を行い維持管理費の削減と効率化を図ります。
- ③ **ごみを減らし、ごみを再利用する**
  - ▶ 住民・事業所・各種団体など、大山町内で暮らし、活動する人々に対し、ごみに関連する情報を提供し、ごみの分別や環境学習など、楽しくごみの減量化に取り組むことのできる方法を伝えます。
  - ▶ 家庭から排出される生ごみの減量化や再資源化を進めるため、電気式生ごみ処理機の購入助成やコンポストの利用を推進します。
  - ▶ **住民や事業者に対し、「ものを使い捨てにしない、 unnecessaryなものを買わない・もらわない」などのごみの発生を抑える活動に取り組める方法を優先的に周知・啓発し、「ごみを発生させない」社会づくりに努めます。**

④ **焼却施設を安心安全に使う**

- ▶ 可燃ごみ焼却施設の県西部広域化によって次期施設に移行するまでの間、名和クリーンセンターを修繕して延命化を図り、適切に維持管理していきます。また、廃止された焼却施設については、地域の生活環境に配慮し安全な解体処分を進めます。

◆ **主な事業**

上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 上水道及び簡易水道事業開拓専用水道事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中山地区上水道統合事業→完了</li> <li>・ 大山地区上水道統合事業→完了</li> <li>・ 大山寺地区上水道統合事業→完了</li> <li>・ 大山地区簡易水道統合事業→完了</li> <li>・ 名和地区簡易水道統合事業→完了</li> <li>・ 老朽施設耐震整備事業</li> <li>・ 開拓専用水道営農飲雑用水整備事業</li> </ul> </li> <li>■ 下水道事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共下水道<b>長寿命化ストックマネジメント計画</b>支援制度（施設の延命化）</li> <li>・ 農業集落排水機能強化事業（施設の延命化）</li> </ul> </li> </ul>
焼却場延命化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 焼却場定期点検清掃事業</li> <li>■ 焼却場修繕事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期修繕事業</li> <li>・ 大規模修繕事業</li> </ul> </li> </ul>

【**主な施策の関連指標**】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年度
水道普及率（上水道等の給水人口／給水区域内人口）	%	96.0 95.3	99.5
汚水処理人口普及率	%	95.8 94.7	99.3
1日当たり廃棄物排出量 <b>削減</b>	t	11.80 11.38	10.50
1日1人当たり廃棄物排出量 <b>削減</b>	kg	0.67 0.71	0.63
リサイクル率	%	18.4 27.0	26.0 30.6

【**関連する部門計画**】

- ・ 簡易水道事業統合計画
- ・ 一般廃棄物処理実施計画

## みんなが地域に気を配り「もしも」に備えよう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

安心安全をつくるのは、私たち一人ひとりのまちへの思いです。そこに暮らす人たちが、地域のことを愛し、気にかけているまちは、犯罪が起こりにくいものです。それは、地域の人々の目が行き届いていることが、まちの雰囲気全体にあらわれるからです。そして、災害や犯罪が起きた時も、地域住民と警察、行政が連携し、被害を最小限に食い止めることができる。そんな安心安全な大山町になっています。

### まちの現状と課題

社会情勢の変化にともない、犯罪件数の増加、犯罪の低年齢化・凶悪化が進んでいます。「振り込め詐欺」や「企業対象暴力」などのように巧妙化しているだけでなく、「いじめ・虐待」のように周囲からは気づきにくい状況で行われているものも増加し、その対応が難しくなっています。

地域のつながりの希薄化などにより、地域で犯罪を未然に防ぐ力が弱まっています。大山町では、児童・青少年を犯罪から守り、青少年の問題行動を未然に防ぐため、関係機関が連携し、定期的な町内パトロールや犯罪の発生しやすい場所の確認、防犯に関する注意喚起を行っています。

安心安全なまちづくりを進めるために、警察や防犯組織などと地域が連携を密にし、防犯活動の推進や「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を高め、常に人の目が行き届いた明るい地域づくりを進めていかなければいけません。

また、近年はゲリラ豪雨など、予想のつかない自然災害が頻発し、防災に対する意識はいつそう高まり、災害発生時の対応が課題となっています。人口の減少や高齢化により地域の消防・防災体制の弱体化が予測されることから、組織や施設を充実させる、集落や自治会を越えて連携し合うなど新たな体制で災害に備えていく必要があります。

※ 要援護者…災害時において、安全な場所に避難する際に支援を要する人のこと。



こうなったらいいな、  
を実現するために

### ① 地域と連携した防犯体制の強化

- ▶ 犯罪を未然に防ぐため、関係機関との連携を強化します。
- ▶ 防犯意識の高い地域づくりをめざし、地域に根ざした防犯活動を積極的にサポートします。
- ▶ 児童・青少年を犯罪から守り、青少年の問題行動を未然に防ぐため、青少年育成町民会議や保護者・学校などとの連携を強化した取り組みを進めます。

- ▶ 犯罪の発生しやすい箇所の点検やパトロールを進めるとともに、防災行政無線や大山チャンネルなどを活用し、それらの情報を共有することで、環境の改善や防犯意識の醸成につなげます。

### ② 住民主体の消防・防災体制の強化

- ▶ 消防団と広域消防との連携や既存団員の人員の確保、機材の充実を図り、災害時に備えます。
- ▶ 自主防災組織が生まれやすい環境を作るとともに、引き続き組織のサポートを進め、地域の防災力の向上につなげます。
- ▶ 自主防災組織と連携し、要援護者<sup>※</sup>も安心してらせる地域づくりを実現します。
- ▶ 総合的な防災訓練などを実施し、防災意識を高めるとともに、災害発生時にどのように対応したらいいかを日頃から習得する機会につなげます。また適宜各種計画の点検、見直しを行います。

- ▶ 耐震化の必要性や既存の補助制度を広く住民に伝え、住宅の耐震化を進めます。

【関連する部門計画】

- ・大山町地域防災計画
- ・大山町国民保護計画



まちにたくさん関わって  
多くの「もうけ」を得よう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

まちに関わればかかわるほど、「もうけ」をたくさん得ることができます。ただしその「もうけ」はお金だけではありません。新しい出会いや体験、感謝の言葉など、目に見えない、けれど確かに私たちの中に蓄積されていく満足感や達成感などです。本当に豊かで楽しい暮らしを考えた時に、必要なのは、こうした気持ちではないでしょうか。

町内のあらゆる世代の住民が垣根なくふれあい、積極的に楽しみながらまちづくりに参加することで、みんながたくさんの「もうけ」を得られる。そんな大山町になっています。

まちの現状と課題

まちに関わることは大変。面倒くさい。そう考える人が、若者を中心に増えています。若者がまちと関わらなくなると、これまで地域を支えてきた中高年世代と、これからのまちを支えるべき世代との交流が生まれません。また、先人が育ててきた知恵や地域の文化・伝統の魅力を伝えることもできません。何より、地域を担う若い世代がいないということは各集落の活気がなくなることにつながります。

しかし、本当にまちと関わることは大変で面倒くさいだけなのでしょうか。確かに、時間や労力やアイデアなど、たくさんのものを「投資」しなければいけないかもしれません。ただ「投資」した分、得られる「もうけ」もあります。新しい仲間、趣味、精神的な支えなど、それらは確かに、日々の暮らしの豊かさや楽しさにつながっていくものばかりです。

まずは楽しさを入り口にして、まちと関わるきっかけをつくること。そして、自分も楽しく、地域のためにもなる活動をできることから始めてみる。それらが、まちに関わり、支える人材を増やしていくこととして最も重要です。



こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① 住民のまちづくり活動をサポートする
  - ▶ 地域自主組織<sup>※</sup>などの地域づくり団体が、自分たちの力で取り組みを進めていくためのサポートを進めます。
  - ▶ より幅広い住民がまちに関心を持つためのきっかけづくりや、住民が自ら考え、楽しみながら活動ができる環境づくりを進め、住民と行政がそれぞれの得意分野において役割分担しながらまちづくりを進めていきます。
- ② 住民一人ひとりの声を聞く機会を増やす
  - ▶ 審議会、委員会、各種意見交換会、パブリックコメント<sup>※</sup>などで、住民の意見を聞き、反映するように努めます。
  - ▶ 町がテーマを定めて出かけていく「集落行政懇談会」や、集落や団体などの希望される内容で意見交換する「町長の出前座談会」を継続して実施します。
- ③ 世代間の交流を生み出す
  - ▶ 各種団体をはじめとしたテーマ型コミュニティや地域自主組織をはじめとした地縁型コミュニティなどが自主的に実施する行事などを通じて、世代間交流が生まれるよう、場づくりやその情報発信に取り組めます。
  - ▶ 高齢者福祉機関と保育所・学校の連携による世代間交流を充実します。

※ 地域自主組織…地域の様々な組織や個人がつながり、連携を深めることで地域課題を自ら解決する組織。

※ パブリックコメント…公的な機関が計画や規則などを策定する際に、広く公に意見を求める手続き。

◆主な事業

住民主体のまちづくり活動の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■住民と行政の協働によるまちづくり体制の構築</li> <li>■「集落行政懇談会」と「町長の出前座談会」の開催</li> <li>■「町長への手紙」や「行政目安箱」の活用</li> </ul>
---------------------	--

第1節 みんなが楽しみながらまちに関わるために

31

異なる文化を理解し、尊重する、  
懐の深い大山町を目指そう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

異なる文化を理解し、尊重する、懐の深い大山町でありたいと思います。違う文化に触れることで、あらためて自分たちのまちに誇りを持つこともできるはず。そして、国内外問わずさまざまな人々が行き交うまち、異なった文化・歴史・習慣を学び広い視野を持った人が活躍することのできるまちになっていきます。

まちの現状と課題

大山町では、人材育成や文化交流及び国際親善を目的とし、旧町の時から、小中学生や住民同士の交流を進めてきました。

沖縄県嘉手納町<sup>※</sup>とは、小学生の人材育成交流事業として相互派遣を通じての交流が続いています。また、友好・姉妹都市との文化交流や親善を目的として、広島県呉市<sup>※</sup>の他、米国カリフォルニア州テメキュラ市<sup>※</sup>、韓国江原道襄陽郡<sup>※</sup>との国際交流も行われています。国際交流では、交流協会をはじめとした関係団体、住民が積極的に関わり、国際理解と友好親善を図る活動が続けられています。

友好・姉妹都市との交流については、今後、民間レベルでの「草の根の交流」がもっと促進され、民間主導の交流に移行していくこと、これらの交流に関わる人がその経験を通じて、改めて自分たちの住む大山町を見直し、まちづくりに活かしていくことが必要です。

※ 嘉手納町…昭和63年（1988年）より相互派遣交流  
 ※ 呉市…平成7年（1995年）友好都市提携締結  
 ※ テメキュラ市…平成6年（1994年）姉妹都市提携締結  
 ※ 襄陽郡…平成16年（2004年）友好親善交流協定締結



こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① より充実した交流を進める
  - ▶ 交流の目的などについて住民の理解を促し、誰もが参加しやすいシステム、環境づくりに努めます。
  - ▶ 国内交流・国際交流事業とも、交流を継続するとともに、節目の時など時機をとらえ、その意義が広く理解され、交流の裾野を拡大できるような取り組みを検討します。
  - ▶ 小中学生の教育の観点からの国内交流・国際交流事業は、内容や運営により工夫を加え、いっそう充実した事業になるよう配慮します。

◆主な事業

国内交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 友好・姉妹都市交流の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島県呉市</li> </ul> </li> <li>■ 小学生交流の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄県嘉手納町</li> </ul> </li> </ul>
国際交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 友好・姉妹都市交流の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米国テメキュラ市</li> <li>・ 韓国江原道襄陽郡</li> </ul> </li> <li>■ 友好・姉妹都市中学生交流の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内中学生と米国テメキュラ市内ミドルスクール</li> <li>・ 町内中学生と韓国江原道襄陽郡内中学校</li> </ul> </li> <li>■ 国際交流協会への支援</li> </ul>

第1節 みんなが楽しみながらまちに関わるために

32

地域の思いや力を  
発揮できる環境をつくろう

こうなったらいいな、  
10年後の大山町

地域のことを一番よく知っているのは、そこに暮らす人たち。その地域を支え、盛り上げていくためにも、住民一人ひとりの力が不可欠です。その力を受け止め、具体的な取り組みにつなげていくのが集落や自治会、そして各地区で生まれている地域自主組織です。それらに関わる人の思いや力が発揮できる、環境ができています。

まちの現状と課題

住民と行政がそれぞれできること、やるべきことを確認し、パートナーとして支え合いながらまちづくりを担っていくことが不可欠な時代です。大山町では、行政のパートナーとして各地域を自らの力で支え、運営していく組織として、各集落から選出されたまちづくり委員で構成される「まちづくり地区会議」の活動を支援し、継続的にまちづくり活動を実行できる「地域自主組織」の設立を進めてきました。

今後、これらの組織をサポートするには、関わるそれぞれの人が、楽しみながら無理なく活動に関わることのできる環境をつくっていくことが大切です。行政がすべきこと、地域自主組織が担った方がいいこと、協働した方がいいこと。それらを適切に判断し、具体的な活動につなげていかなければいけません。



こうなったらいいな、  
を実現するために

- ① 地域自主組織が活動しやすい環境をつくる
  - ▶ 集落や自治会などの活動支援とともに、地域自主組織の設立や運営をサポートし、将来的に、自らの力で活動を進めていける組織づくりにつなげます。
  - ▶ 若い層を中心としてあらゆる世代、特にこれまでまちとの関わりが少なかった人たちが、地域活動に関わるための仕組みを考えると同時に、地域の今後を担っていくリーダーとなる人材の発掘・育成に取り組めます。
  - ▶ 先進事例や町内での活動事例などを紹介し、大山町ならではの地域自主組織活動につなげます。

◆主な事業

住民主体のまちづくり活動の仕組みづくり	■ 地域自主組織の活動支援
---------------------	---------------

【主な施策の関連指標】

指標名	単位	現状値	目標値
			10年後
地域自主組織の設立件数	件	6 10	10
地域自主組織への業務委託件数	件	4	10



### どこにお金を使うのか、誰が担うのかを見直そう

#### こうなったらいいな、10年後の大山町

大山町の将来を考えるうえで、お金の視点は欠かせません。本当に必要な事業はどれなのか。その事業を誰が担うのが一番よいか。時には、行政だけでなく、住民や企業が公共的な役割を担っていくことも必要です。そうした判断がしっかりされていて、お金が使うべきところに使われていて、歳入と歳出のバランスがとれている。そんな大山町になっています。

#### まちの現状と課題

地方分権の進展により、各地域が自らの責任と判断で地域を運営していくことが求められている時代です。人口減少時代に突入し、税収や地域の担い手が減少している中、地域の継続性を考えるには、人口増加時代とは全く違う発想が求められます。まずは、本当に必要な事業を精査すること。そして、民間企業と同じようにコスト意識を持って、効果的、効率的に各事業を進めることが重要です。

誰がその事業を担うべきなのかをあらためて検討し、必要に応じて、アウトソーシング※などによる民間のノウハウ導入を積極的に推進することが必要となっています。

また、財政状況についての情報をより積極的に住民に伝え、大山町の将来を一緒に考え、住民自身もその一部を担っていく姿勢が必要です。

※ アウトソーシング…業務を外部委託すること。

※ 財政調整基金…自治体が財源に余裕がある年に積み立て、不足する年に取り崩すことで財源を調整し、計画的な財政運営を行うための貯金。



#### こうなったらいいな、を実現するために

##### ① 行財政改革を積極的に進める

▶ 国が法律で定めた自治体の財政健全度を示す指標、財政健全化判断基準を満たすよう、行財政改革を積極的に進めます。

##### ② 民間のノウハウをとりいれて施設運営体制を効率化する

▶ 公共施設の管理・運営を見直し、民間のノウハウを活かしてさらなる効率化を図ります。

##### ③ 現状を分析し今後の計画をたてる

▶ 財務諸表の作成による財務分析を行い、財務計画に基づき事業を進めます。

▶ 先行きが不透明な景気の動向に対処できるよう、柔軟性のある財政調整基金※の積み立てに努めます。

##### ④ 財源を安定させる

▶ 納税相談の実施や滞納整理の強化を進めるとともに、税金を納めることの大切さを多くの人に知ってもらい、税金の徴収率を向上していきます。

▶ 利益を受けた人がその費用を負担する受益者負担の考え方から、各種使用料や手数料のあり方を定期的に見直します。

▶ 町が保有する未利用の財産を有効に活用する、あるいは適切に処分することで、財源確保に努めます。

##### ⑤ 財政状況をわかりやすく公表する

▶ 貸借対照表や行政コスト計算書などの活用により、財政状況や税の使われ方を住民にわかりやすく公表し、自分たちの暮らすまちの財政状況の周知に努めます。

#### ◆主な事業

■第5次大山町行財政改革大綱、集中改革プランに基づき、将来に引き継ぐことのできる持続可能な財政基盤をつくる

- ・行政評価（事務事業評価）と事務事業や各種補助金の見直しによる支出削減
- ・財政運営の透明性
- ・民間活力の活用と推進（アウトソーシング、指定管理制度、PPP（PFI）※）、公正公平性の確保

■大山町公共施設等総合管理計画・大山町公共施設個別施設計画に基づき、将来を見据えた施設の統廃合、適正配置、処分

- ・旧保育所など普通財産となり老朽化が著しく、修繕・維持管理経費を考慮し、順次、使用中止、廃止の方針
- ・未利用（遊休）地の活用と処分の推進

#### 【関連する部門計画】

- ・第5次大山町行財政改革大綱、集中改革プラン（令和元年度～令和4年度）
- ・大山町公共施設等総合管理計画（平成28年度～令和27年度）
- ・大山町公共施設個別施設計画（令和2年度～令和31年度）

※ PPP（PFI）…公民が連携して公共サービスの提供を行うスキームをPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）と呼ぶ。PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）は、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図る制度。